長崎県文化財調査報告書 第175集

長崎県埋蔵文化財調査年報11

〔平成14年度調査分〕

2004

長 崎 県 教 育 委 員 会

はじめに

長崎県内には，国指定特別史跡「原の辻遺跡」をはじめ多くの遺跡・埋蔵文化財があります。これらは，私たちが遠い祖先から受け継いできた貴重な文化遺産であり，地域の大切な財産として後世に保存・継承することは私たちの重要な責務であるとともに，広く活用を図っていく必要があります。

そのため，本県では，埋蔵文化財の発掘調査等を積極的に行うとともに，原の辻遺跡・埋蔵文化財センター等整備基本構想策定事業を進めているほか，「原の辻をもっと知ろう塾」などに取り組んでいるところです。

本年報は，平成14年度に県が中心となり県下各地で実施した埋蔵文化財の発掘調査と遺跡の保護・保存・活用のための諸事業の概要を紹介するものです。

今後とも，県民共有の財産である埋蔵文化財の保存・活用へ御理解をいただきますとともに，本書が広く活用されることを期待します。

平成16年３月

長崎県教育委員会教育長　　木　村　道　夫

例　　言

1．本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成14年４月１日から平成15年３月31日までに実施した21箇所の発掘調査の概要を収録したものである。
2．各遺跡の調査概要中の位置図は，国土地理院発行の地図を使用し，［　］内は図幅名を表す。
3．本書に掲載した遺跡には，県教育委員会が主体となって発掘調査したもの，市町村事業に伴い調査対応したもの，市町村教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。
4．平成７年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。
5．各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。
6．本書の編集は，長崎県教育委員会学芸文化課文化財保護主事 荒井春房 が行った。

本　文　目　次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 ……1
二　県事業について ……2
三　県内の研究活動・調査の動向 ……14
四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 ……21
五　平成９年度から平成14年度の発掘届等件数・県市町村別職員数の推移 ……24

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成14年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図……25

①西ノ股遺跡（新魚目町）……26
②コロノコ遺跡（宇久町）……27
③結石山城跡（上対馬町）……28
④供養川遺跡　（平戸市）……29
⑤下開作遺跡（世知原町）　30・31
⑥門前遺跡　（佐世保市）　32・33
⑦門前遺跡　（佐世保市）……34
⑧葉山遺跡（佐世保市）……35
⑨中浦城跡　（西海町）……36
⑩西常盤遺跡（諫早市）……37
⑪伊古遺跡　（瑞穂町）……38
⑫百花台遺跡周辺（国見町）39
⑬大野原遺跡（有明町）……40
⑭畑中遺跡　（島原市）……41
⑮森岳城跡　（島原市）42・43
⑯権現脇遺跡（深江町）44・45
⑰野中遺跡　（有家町）… 46
⑱下木場遺跡（有家町）… 47
⑲貝森遺跡　（有家町）… 48
⑳長崎奉行所跡（長崎市）　49
㉑岩原目付屋敷跡（長崎市）50

Ⅲ　平成14年度長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表……51

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

埋蔵文化財は，国民共有の財産であり，わが国の歴史と文化を正しく理解するために欠くことができないものである。現代のわれわれの生活や文化が，祖先が営々として築いてきた文化遺産を基盤とし，生活水準の向上と安定化のための努力の蓄積によって成り立っていることを考える出発点ともいえる。このように埋蔵文化財は，「わが町」を知る貴重な歴史の証拠であるといえよう。また，過去の文化遺産は現代に生きる私たちの姿を映す鏡に例えられ，未来を考えるための指針ともなるもので，将来の文化の創造のためにも，現存する文化財を尊重し保護・保存・活用することで国民の文化財に対する理解を深めるとともに後世に伝えていくことは，われわれの重要な責務であり，文化財保護行政の根幹を為す基本原理といえるであろう。

文化財保護法では，「埋蔵文化財」は「土地に埋蔵されている文化財」と規定されている（文化財保護法第57条第１項)。埋蔵文化財は，他の有形・無形・民俗文化財・記念物等とは異なり，土地に埋蔵されているため，発掘調査等によりその「価値」が判明する等の特性を有している。発掘調査等によりこの特性が判明した時点で，史跡や考古資料としての客観的価値付けが行われる。このように，埋蔵文化財は，そのままの状態では十分な価値判断ができないことから，文化財保護法ではこれらすべての埋蔵文化財の保護を対象とし，一定の手続きが定められているのである。

現在，長崎県では約3,800ヶ所の遺跡が「埋蔵文化財包蔵地」として『長崎県遺跡地図』に登録されており，長崎県教育庁学芸文化課及び各市町村教育委員会によって，遺跡の周知と保護についての取り組みが鋭意推進されている。

県学芸文化課では，埋蔵文化財保護行政と開発事業の円滑な推進を図るための埋蔵文化財研修事業として，埋蔵文化財基礎講座を６月26・27日に開催し，埋蔵文化財保護行政の現状と展望・埋蔵文化財の取扱いに関する手続き事務・長崎県内の緊急調査等について研修を行った。また，市町村文化財担当者会議を９月２日に開催し，指定文化財の管理・国庫補助及び県費事務と「九州地区埋蔵文化財発掘調査基準」の取扱い等について説明を行った。

本県の平成14年度の開発工事に伴う工事届（法57条の２・３）は150件であり，平成13年度の148件に比べやや上昇している。また，工事に伴う事前調査や遺跡の保護のための発掘調査（法第58条の２）は41件であり，法57条の学術調査４件と合わせた発掘調査の合計は45件であった。調査の内訳は，範囲確認調査20件，本発掘調査25件であり，13年度の51件に比べやや減少している。

県内の埋蔵文化財専門職員は64名（嘱託15名）が配置されている（平成14年５月１日現在)。県教育庁では，学芸文化課に13名（内嘱託４名)，原の辻遺跡調査事務所に６名，佐世保教育事務所に３名（内嘱託１名）が配置されている。市町村では，８市25町に57名（内嘱託10名）が配置されている。

今後，地方分権の推進に伴う市町村合併の動きが加速化する中で，埋蔵文化財を適切に保護・保存・活用するための適正な職員配置が問題となるであろう。職員配置がなされていない場合，その地域での文化財保護行政及び各種開発事業が適切に推進されない事態を招来することが懸念される。県・市町村を問わず，文化財を守り，生かし，次代へ引き継ぐ中核となる文化財保護行政の“担い手づくり”が，今，求められている。

（荒　井）

二　県事業について

1　開発に伴う埋蔵文化財発掘調査等

県学芸文化課では，各種開発行為に伴って現地踏査を行い，埋蔵文化財の取扱いについての協議を行って文化財保護の観点から範囲確認調査を実施している。その結果に基づいて遺跡保護のための協議等を行うが，設計変更等でも遺跡を回避することができず破壊される部分については，本発掘調査を実施している。平成14年度に，県学芸文化課が主体となって行った調査内容は次のとおりである。

○　本調査

・長崎奉行所跡（長崎市）　　歴史文化博物館（仮称）建設事業関係
・供養川遺跡（平戸市）　　海岸保全工事関係
・森岳城跡（島原市）　　県立島原高等学校施設改修関係
・門前遺跡（佐世保市）　　西九州自動車道建設事業関係

○　範囲確認調査（開発に伴う試掘・確認調査を含む）

・葉山遺跡（佐世保市）　　警察関係庁舎新築工事関係（国庫補助事業）
・貝森遺跡（有家町）　　堂崎港海岸整備事業関係
・長崎奉行所跡（長崎市）　　県内遺跡に伴う範囲確認調査関係（国庫補助事業）
・岩原目付屋敷跡（長崎市）　　県内遺跡に伴う範囲確認調査関係（国庫補助事業）
・西常盤遺跡（諫早市）　　一般県道多良岳線改良工事関係
・野中遺跡（有家町）　　農免農道整備事業関係
・下木場遺跡（有家町）　　農免農道整備事業関係
・西ノ股遺跡（上五島町）　　県立上五島高等学校武道場改築工事関係（国庫補助事業）
・百花台遺跡（国見町）　　地域拠点遺跡内容確認調査事業関係
・畑中遺跡（島原市）　　地域拠点遺跡内容確認調査事業関係
・大野原遺跡（有明町）　　地域拠点遺跡内容確認調査事業関係
・門前遺跡（佐世保市）　　西九州自動車道建設事業関係

また，県内市町村事業に伴って，県が調査担当及び支援を行った主な遺跡は次のとおりである。

・下開作遺跡（世知原町）　　交流基盤整備事業関係
・権現脇遺跡（深江町）　　水無川流域直轄砂防事業関係
・伊古遺跡（瑞穂町）　　県営圃場整備事業関係
・結石山城跡（上対馬町）　　生活環境施設整備事業関係
・コロノコ遺跡（宇久町）　　畑地帯総合整備事業関係

その他，尾茂遺跡（国見町），中浦城跡（西海町），尾和谷城跡（諫早市）等について支援した。

以上の発掘調査事業の他に，平成14年度には次の調査報告書を刊行した。

・『長崎県埋蔵文化財調査年報10』長崎県文化財調査報告書 第171集　2003年３月
・『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ』長崎県文化財調査報告書 第172集　2003年３月
・『森岳城跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書 第173集　2003年３月
・『供養川遺跡』長崎県文化財調査報告書 第174集　2003年３月

（荒　井）

2　明日へつなぐ埋蔵文化財人づくり事業

（1）埋蔵文化財普及啓発活動の推進

◆ 開発・文化財担当者埋蔵文化財基礎講座

日　時　　平成14年6月26日（水）・27日（木）

場　所　　長崎県庁新別館9Ｆ会議室

本講座の目的は以下のとおりである。

① 開発部局担当者に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらい，その取扱いについて具体的な情報を提供することにより，円滑な埋蔵文化財保護行政を推進する。

② 埋蔵文化財担当者に専門的な知識を修得する場を提供することにより，埋蔵文化財の保護と活用を図る。

研修の内容は以下のとおりである。

第1日目　県・市町村開発事業の計画・実施担当者ならびに市町村教育委員会文化財保護部局担当者を対象に実施。

①開発事業と埋蔵文化財保護行政　（学芸文化課）

②埋蔵文化財の事務処理について　（学芸文化課）

③平成13年度の長崎県内の緊急調査（学芸文化課）

④質疑応答

⑤埋蔵文化財保護行政の現状と展望（文化庁）

第2日目　文化財保護部局担当者を対象に実施。

⑥ 講義「古代の色と織物」　　（寺田貴子氏）

埋蔵文化財の手続きについて（市町村文化財担当者会議）

①～⑤は，発部局と文化財保護部局の担当者を対象として6月26日に行い，137名の出席があった。⑤では，文化庁記念物課の禰冝田佳男調査官より，埋蔵文化財保護行政を取りまく現状と展望に関して具体的なデータを用いてお話いただいた。⑥は，文化財保護部局の担当者を対象として翌27日に行い，73名の出席があった。玉木女子短期大学被服学科助教授の寺田貴子氏より，「古代の色と織物」と題して講義をいただいた。弥生時代から近現代にいたる染色史・色彩史，日本の古代の色や出土遺物と織物など，織物をとおして見た考古学の講義は大変興味深いものであった。

◆ 長崎県市町村文化財担当者会議

日　時　　平成14年9月12日（木）

場　所　　長崎県庁新別館9Ｆ会議室

本会議の目的は，県と市町村文化財担当者間の情報・連絡を密に行うことにより，埋蔵文化財及び指定文化財についての円滑な保護行政を推進することにある。内容は以下のとおりである。

①指定文化財の管理について　（文化企画班）

②国庫補助及び県費について　（文化企画班）

③長崎県文化財保護指導委員について　（文化企画班）

④九州地区調査基準について（埋蔵文化財班）

⑤埋蔵文化財の手続きについて（埋蔵文化財班）

質疑応答（市町村文化財担当者会議）

市町村担当者60名の出席があった。現今の埋蔵文化財保護行政をとりまく厳しい話題に関しては，特に出席者の関心が高かった。　　（荒　井）

（２）親子古代技術体験事業

本事業は，発掘調査によって得られたデータを用いつつ親子・グループで体験的な活動を行うことにより，郷土の歴史や文化財に対する愛着を持ち，親子のふれあいを深めることをねらいとして平成11年度から実施している。具体的には，県学芸文化課職員が県内各地域の小学校へ出向き，高学年児童およびその保護者を対象にゆとりの時間等を利用して，親子で古代技術の一端を体験してもらうものである。また，平成14年度からは学校週五日制に伴い，土曜・祝祭日に「指定地域」でも実施することになった。体験内容は，「舞いきり」を使った『火起こし』と，比較的軟らかな石（滑石）をブロックやヤスリで削って作る『勾玉作り』である。また，小学校や実施地域周辺の遺跡紹介や，県内の遺跡から発掘された本物の考古資料に実際に触れその使用方法等を説明する時間も設定している。平成14年度は小学校６校・指定地域２箇所で実施した。実施校・実施地域・参加者数等は次のとおりである。

＜小学校実施分＞

	日　時	実　施　校	児童数(人)	教職員数(人)	保護者数(人)	合　計
1	７月４日5･6校時	長与町立長与小学校	９７	３	１０	１１０
2	９月３日5･6校時	佐世保市立山手小学校	６０	２	１０	７２
3	９月11日5･6校時	若松町立若松東小学校等	５１	７	１０	６８
4	10月17日5･6校時	南有馬町立南有馬小学校	７０	４	２０	９４
5	11月22日2･3校時	勝本町立霞翠小学校	４９	３	３	５５
6	11月25日5･6校時	峰町立西小学校	２７	７	４	３８
合 計			３５４	２６	５７	４３７

＜地域実施分＞

	日　時	実施地域	児童数(人)	教職員数(人)	保護者数(人)	合　計
1	９月21日13～17時	松浦市	８４	３	４３	１３０
2	11月２日９～12時	吾妻町	３９	２	１９	６０
合 計			１２３	５	６２	１９０

＜ 平成12～14年度アンケート集計結果(小学校実施分―全実施校参加児童対象) ＞

	平成12年度				平成13年度				平成14年度			
項目＼評価	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×
①親子古代技術体験事業は楽しかったですか?	86 %	12 %	2 %	0 %	83 %	16 %	1 %	0 %	85 %	13 %	3 %	0 %
②昔の人たちの生活に興味がもてましたか?	40 %	40 %	18 %	2 %	46 %	43 %	10 %	1 %	33 %	48 %	18 %	2 %
③火おこしは楽しかったですか?	73 %	19 %	6 %	2 %	80 %	16 %	4 %	0 %	63 %	28 %	9 %	1 %
④火おこしはうまくいきましたか?	38 %	25 %	19 %	18 %	44 %	32 %	19 %	5 %	24 %	18 %	27 %	31 %
⑤勾玉作りは楽しかったですか?	85 %	11 %	4 %	0 %	89 %	9 %	2 %	0 %	86 %	11 %	2 %	1 %
⑥勾玉作りはうまくいきましたか?	41 %	32 %	19 %	8 %	38 %	42 %	16 %	3 %	34 %	39 %	22 %	5 %
⑦仲間(保護者)と協力して作業できましたか?	63 %	27 %	9 %	1 %	71 %	24 %	4 %	1 %	58 %	31 %	9 %	3 %

(◎・・大変良い　○・・良い　△・・ふつう　×・・あまり良くない)

実施後，昨年度に引き続き，児童・保護者・教職員を対象にアンケート調査を実施した。児童に対して実施したアンケートについて，平成12年度から平成14年度までの項目別評価を見ると，項目①では，「大変良い・良い」が各年度ともに97～99％である。古代の人々の生活技術や郷土の歴史を「体験的な活動を通して学ぶ」ことに対する評価は極めて高い。項目②・③・⑤も高い数値を示している。しかし，「ふつう・あまり良くない」という評価を点検してゆくと，項目②は各年度ともに10％を超えており，本事業後，原始・古代に興味・関心が持てなかった児童がいることも明らかである。

項目④について，平成14年度はうまく火を起こせなかった児童の割合が58％と激増している。この理由は２つ考えられる。第１に，事業実施日の天候（雨天や湿度が高いなど）に恵まれなかったこと。第２は，歴史文化博物館（仮称）建設に伴い学芸文化課立山分室が移転することになり，平成13年度まで使用してきた機材乾燥室が使用できなかったことである。このため，火起こし関係用具を十分に乾燥させることができなかった。しかし，当日の気候や火起こし道具の状態で火起こしの成功率が大きく異なることを説明し，古代に生きた人々の不安定な暮らしと，自然の中で生き抜くための知恵について考えるきっかけづくりを行うことはできた。

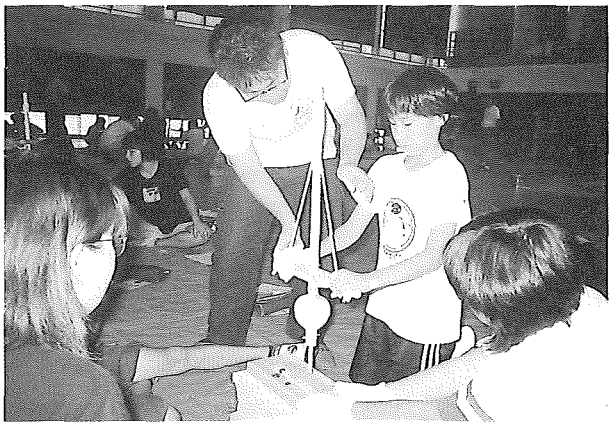
『勾玉作り』については，ほとんどの児童が「楽しかった」と考えている。『勾玉作り』では，児童一人ひとりが自分の創意工夫により勾玉を制作してゆく作業であり，どのような勾玉を作ろうかと想像を巡らす児童の姿が印象的であった。

道具類の準備については，『火起こし』道具の設定作業はしっかり行えたものの，前述のとおり乾燥状態が極めて悪かった。次年度は，乾燥も含めて機材の整備に十分留意しなければならない。『勾玉作り』については，滑石等軟質の石材を使用し，時間内に完成できるように努めた。また，完成させることはできなくてもなるべく荒削りまで終えるよう指導した。

本事業をほぼ満足する段階で終了するためには，２時間30分程度の時間を要する。来年度の実施にあたっては，事前打ち合わせ等の機会を通じて十分な時間の確保をめざしたい。

事業全体としては，今年度も古代の技術を実際に体験する中で親子の心のふれあいを深め，郷土の歴史や文化財に対する興味や関心を持つきっかけづくりができたと思われる。また，学校教育のカリキュラムの中で，総合的な時間の取扱いについての一つの提示ができたという点でも，本事業の目的は十分達成できたと思われる。

（荒　井）



親子古代技術体験事業（火起こし）於：若松東小学校

親子古代技術体験事業（遺物に触れよう）於：長与小学校

3　重要遺跡情報保存活用事業

本事業は，県内約3,800ヶ所を数える遺跡の発掘履歴などをデジタル情報として整備し，また155ヶ所の県内重要遺跡について詳細な内容確認調査を実施して各種開発事業への対応と地域の文化遺産を活用するための基本資料を整備し，また各開発に対する予備調査を国庫補助事業を受けて実施し，開発事業との円滑な調整と，文化財を活かした地域文化の振興を図るため平成14～18年度にわたり実施する。

・遺跡情報システム整備事業

遺跡台帳と発掘調査で検出された遺構・遺物や写真・図面等の情報と調査履歴等をデータベース化し，開発調整や歴史教材の資料として活用する。また，遺跡の内容や調査履歴等の資料提示を迅速化させ，開発側との速やかな協議・調整を図るために実施している。平成14年度は遺跡地理情報システム（遺跡ＧＩＳ）構築の基礎となるデータベースの作成を行った。国土地理院発行の紙地図・数値地図と県内の市町村に提供していただいた管内地図，及び県林務課より借用の森林基本図（電子データ）により，県内の地図を電子データ化するとともに，遺跡台帳の内容等を属性データとして入力した。

次年度は基礎データのさらなる充実と汎用性が高く活用しやすいシステムの構築を行っていく予定である。

・地域拠点遺跡内容確認調査事業

長崎県内には約3,800ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が周知されているが，この内155の遺跡については，本県の遺跡の特質を伝える重要な遺跡である。本事業は遺跡の「価値」付けを行い遺跡地理情報システムと連携させ開発と遺跡の保存活用のための基本資料を整備するものである。年間３遺跡を調査対象としている。平成14年度は，国見町所在の百花台遺跡，有明町所在の大野原遺跡，島原市に所在する畑中遺跡について調査を実施した。百花台遺跡は，西日本を代表する旧石器・縄文の遺跡でしかも大規模な遺跡として知られる。標高約200ｍに所在する。雲仙山麓にはこの標高ラインに後期旧石器～縄文早期の遺跡が多いが，その中の中核的な遺跡といえる。大野原遺跡は，縄文晩期～古代にかけての複合遺跡であり，縄文後期後半における県内最大規模の遺跡である。畑中遺跡は，縄文晩期前葉および中世の複合遺跡である。この３遺跡は出土土器の形式が特定の時代に集中していることから，時代による集落の変遷を伺うことができる。いずれも大規模な遺跡であり，その時代の中核的な集落が存在した可能性が高い。土器の出土量も多く，島原半島の拠点遺跡といえる。これらの調査結果については，平成15年度刊行予定の『地域拠点遺跡内容確認調査報告書Ｉ』に詳しい。

・開発事業関連予備調査事業

本事業は，分布調査・試掘調査・範囲確認調査などの予備調査を行い，開発事業との調整を円滑化させることを目的とし，年間４遺跡程度（５年間で20遺跡）調査を実施する。分布調査は，事業対象地区に遺跡が含まれているかの有無を現地踏査により判断する。試掘調査は，事業対象地区に未周知の遺跡が存在しているかの有無を発掘調査によって確認する。範囲確認調査は，事業対象地区に周知の遺跡が含まれ，埋蔵文化財に影響を与える行為が計画されている範囲を対象として発掘調査を行い遺跡の範囲を確定するものである。開発事業に伴う予備調査は文化財担当部局で負担することが望ましいとの文化庁の指導があり，調査のための経費については国庫補助を受けて実施するものである。

（荒　井）

4　原の辻遺跡保存活用事業及び保存整備事業

長崎県では，中国の歴史書「魏志倭人伝」に記載された「一支国」の王都に特定された原の辻遺跡の特性を活かした保存整備を促進し，地域振興の核として活用を図るため，国指定特別史跡の原の辻遺跡関係事業として，保存活用事業と保存整備事業を実施している。

事業の内容は，壱岐・原の辻展示館及び調査事務所の管理運営，保存整備，土地公有化，普及啓発，発掘調査，そして原の辻遺跡が平成12年11月に国指定特別史跡になったことを記念する事業として平成13年度から平成14年度も引き続いて，記念シンポジウム『発掘「倭人伝」－東アジア世界と海の王都、長崎県壱岐・原の辻遺跡－』を東京都で開催し，大村市・平戸市・佐世保市で原の辻大学講座「一支国探訪」を開催した。

（1）原の辻遺跡保存整備事業

・原の辻遺跡調査事務所と壱岐・原の辻展示館の管理運営
・調査指導委員会の開催
・「要覧」「原の辻ニュースレター」第13号～15号の刊行
・出土遺物の複製・保存処理。記録ビデオの作成
・国特別史跡指定記念シンポジウム『発掘「倭人伝」－東アジア世界と海の王都、長崎県壱岐・原の辻遺跡－』の開催
・三姉妹遺跡交流連絡会議
・原の辻大学講座「一支国探訪」の開催（大村市・平戸市・佐世保市）

（2）原の辻遺跡保存整備事業

・史跡整備のための調査（芦辺町2,000㎡，石田町1,300㎡）
・土地の公有化（国・県補助）
・原の辻遺跡調査研究事業（国庫補助）

（3）原の辻遺跡調査研究事業の成果について

調査事務所では，平成14年度は，台地先端部（高元地区），台地東側の低地部（石田高原地区），台地西側の低地部（八反地区）の3箇所の地区に，面積2,500㎡の発掘調査を行っている。高元地区では，古墳時代の竪穴住居跡10棟以上，弥生時代中期の土坑6基，多数のピットなどを検出した。土坑のなかで焼土がはりついた土坑が2基あり，金属生産にかかわる可能性をもっている。また，古墳時代の竪穴住居跡の覆土から銅鐸の舌が出土している。八反地区では，弥生時代中期と後期の環濠が確認され，弥生時代中期より古いと考えられる掘立柱建物も検出されている。石田大原地区では，弥生時代中期から古墳時代の環濠14条のほかに，環濠の陸橋部分をＬ字に折れ曲がって入る道路と入口が確認され，環濠のなかから龍を線刻で描いた絵画土器も発見された。

（4）主要地方道勝本石田線改修工事に伴う発掘調査

平成14年度は，台地西側の低地部（八反地区）の県道予定地2,400㎡を発掘した。調査の結果，弥生時代後期の環濠1条，弥生時代終末～古墳時代前期の溝，弥生時代後期～古墳前期の旧河道，古墳時代前期以降の堰跡，足跡状遺構，古代の溝などが検出され，馬韓系土器や朝鮮半島系土器が多く出土した。［以上調査については「ニュースレター」第16号2003.8より抜粋した］

（宮　﨑）

5　原の辻大学講座「一支国探訪」

原の辻遺跡は，平成９年に国史跡，平成12年に国特別史跡に指定された我が国の弥生時代を代表する重要な遺跡である。そのため県教育委員会は国内の幅広い人たちに本遺跡の重要性を理解してもらうために，平成12年度から原の辻大学講座「一支国探訪」を企画・実施している。平成14年度はその事業最終年度になる。本講座は，毎年３会場において県教育委員会が招聘した講師による講演及び原の辻遺跡調査事務所所員による発掘調査報告を行うもので，平成12～14年度の講演テーマ・講師は以下のとおりである。

年度	講演テーマ	講師
平成12	戦い	佐原　眞（国立歴史民俗博物館長）
	環濠集落	工楽 善通（〔財〕ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所研修事業部長）
	葬制と祭祀	高島 忠平（佐賀女子短期大学教授）
平成13	東アジアの中の一支国	西谷　正（九州大学大学院人文科学研究院教授）
	弥生都市はあったか	寺沢　薫（奈良県立橿原考古学研究所調査第一課長）
	勾玉のはなし－縄文時代から古代まで－	木下 尚子（熊本大学文学部教授）
平成14	考古学者はいったい何をしてきたのか　－原の辻・吉野ケ里・富の原遺跡に着目して－	酒井 龍一（奈良大学文学部教授）
	もうひとつの玄関口～山陰の弥生遺跡と日本海交流	佐古 和枝（関西外国語大学助教授）
	東アジアの初期の農耕文化	甲元 眞之（熊本大学文学部教授）

平成14年度の日時・講座内容は次のとおりである。

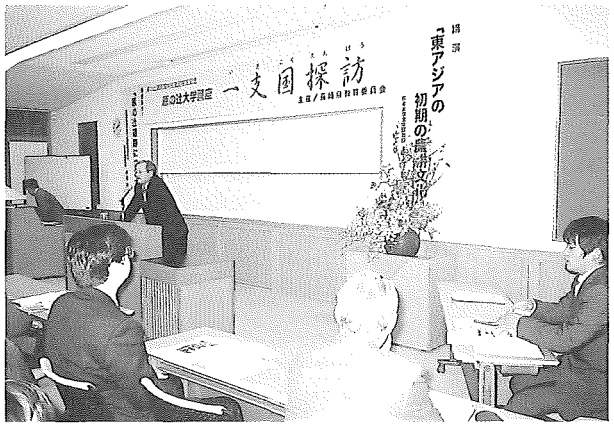
・第一回　日　時　平成14年９月28日（土）13：30～15：30
　　会　場　大村市コミュニティーセンター
　　講　師（１）講　演　テーマ「考古学者はいったい何をしてきたのか―原の辻・吉野ケ里・富の原遺跡に着目して―」
　　酒井　龍一（奈良大学文学部教授）
　　（２）発掘調査報告　「原の辻遺跡について」
　　小玉　友裕（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所文化財保護主事）

・第二回　日　時　平成14年10月27日（日）13：30～15：30
　　会　場　平戸文化センター
　　講　師（１）講　演　テーマ「もうひとつの玄関口～山陰の弥生遺跡と日本海交流」
　　佐古　和枝（関西外国語大学助教授）
　　（２）発掘調査報告　「原の辻遺跡について」
　　福田　一志（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所主任文化財保護主事）

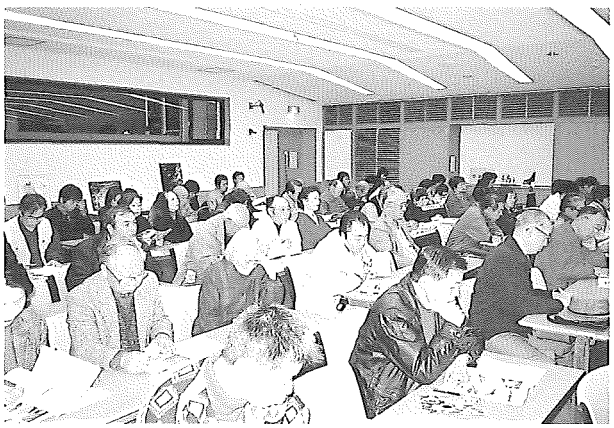
・第三回　日　時　平成14年11月９日（土）13：30～15：30
　　会　場　佐世保市立図書館
　　講　師（１）講　演　テーマ「東アジアの初期の農耕文化」
　　甲元　眞之（熊本大学文学部教授）

（２）発掘調査報告　「原の辻遺跡について」

中尾　篤志（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所文化財保護主事）



講演：甲元　眞之 氏



熱心に聴講する参加者

実施後のアンケート等をみると，講演・発掘調査報告ともにたいへんわかりやすく原の辻遺跡や弥生時代の考古学について理解が深まったという意見があり，質疑応答はたいへん活発であった。各会場とも考古学・歴史学に高い興味・関心を持つ方が参加しており，また，複数の講演会に参加する方もあった。

※　毎年，原の辻大学講座「一支国探訪」記録集を刊行している。

（荒　井）

6　「人面石の叫び！！」公募について

平成13年９月17日に原の辻遺跡の芦辺町八反地区の調査区から「人面石製品」が出土したことを受け，県教育委員会及び原の辻遺跡保存等協議会は，平成13年度に「人面石の叫び！！」と題し『人面石製品が何を語っているか』というテーマで公募を行った。その結果，全国から4,852作品の応募があり，選考の結果，入賞10作品（最優秀賞１，優秀賞２，優良賞７），佳作10作品が選定された。

応募状況をみると，地域別では長崎県内からの応募が全体の８割を占めたが，北海道から沖縄県まで全国から応募があった。応募者の年齢構成は４歳から93歳と幅が広いが，小・中・高校生（12～18歳）からの応募が多く，学校単位での応募もあった。

入賞作品を都道府県別でみると，長崎県，福岡県，岡山県，大分県，京都府，広島県，神奈川県，千葉県，大阪府，宮城県となっている。

入賞作品は，10月20日（日）に開催された『原の辻遺跡国特別史跡指定記念シンポジウム―発掘「倭人伝」―』会場で発表・掲示され，シンポジウム終了後は壱岐・原の辻展示館にて掲示された。

この公募をとおして，原の辻遺跡についてより多くの人々に周知し，興味・関心を高めるという当初の目的は達成できたと思うが，今後もあらゆる機会をとおして原の辻遺跡や県内各遺跡の紹介を行っていかねばならない。

最後に，最優秀賞に選定された作品を紹介してこの項を終えたい。

「私はみんなが、豊かに、幸せに暮らせるようにと見守ってきた。私はずっと前からこの壱岐の暮しを見てきたんだよ！みんな力を合わせて、生活を豊かにしようとがんばっていた。だからきみたちもがんばって！！」

（荒　井）

7　原の辻遺跡国特別史跡指定記念シンポジウム―発掘「倭人伝」―

原の辻遺跡は，中国の歴史書「魏志」倭人伝に記載された三十余りの国々の中で，「一支国」の王都として唯一特定された遺跡である。当遺跡は，弥生時代の国の構造や対外交渉の実態を解明するうえで極めて重要であるとの評価を受け，平成12年11月に国の特別史跡に指定された。この特別史跡指定を記念して，平成13年度には壱岐・大阪・福岡で遺跡展を開催し，約30,000人の観覧を得た。平成14年度は，日本の歴史を知るうえで原の辻遺跡の持つ極めて貴重な歴史的・文化的価値を，広く一般の方々に知っていただくため，学術シンポジウムを開催した。概要は以下のとおりである。

1　タイトル　原の辻遺跡国特別史跡指定記念シンポジウム
　　発掘「倭人伝」―東アジア世界と海の王都原の辻遺跡―

2　会　　場　よみうりホール

3　期　　日　平成14年10月20日（日）　13：00 ～ 16：00

4　主　　催　長崎県，長崎県教育委員会，読売新聞社

5　テ ー マ　原の辻遺跡の発掘調査成果をもとに，「魏志」倭人伝に記載された「一支国」の王都の様子を明らかにするとともに，原の辻遺跡を介して展開された中国・朝鮮半島および日本列島との交流と流通の歴史を，第一線の考古学者が討議し，解明していく。

6　基調講演　「東アジア世界と倭との交流」　金関　恕 氏（大阪府立弥生文化博物館長）

7　シンポジウム　「東アジア世界と倭 ― 交流と流通」

・コーディネーター　高倉　洋彰 氏（西南学院大学）

・パネラー　禰宜田　佳男 氏（文化庁文化財部記念物課）
　　村上　恭通 氏（愛媛大学）
　　白井　克也 氏（東京国立博物館）
　　高野　晋司（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所長）

・コメンテーター　金関　恕 氏

8　討　　議　・原の辻遺跡について― 最近の発掘調査の成果から ―
　　・弥生時代から古墳時代初頭の東アジアと日本列島の交流
　　・一支国の王都，原の辻遺跡を介した交流と流通―原の辻遺跡が果たした役割―

金関氏の基調講演は，弥生時代の国々の間で結ばれた同盟や和解は，一種の宗教に基づく同盟ではなかったかという仮説について，古代ギリシアをモデルに解説された。シンポジウムでは，原の辻遺跡の概要と交流・流通の実態についてたいへん活発な討議がなされた。また，平成13年度に公募を行った「人面石の叫び！！」の選考結果発表と，入賞作品の公開展示が行われた。

シンポジウム開催後アンケートを実施したが，その中の「考古学上，壱岐が大変重要な所であることを認識した。今まであまり知られていなかっただけに，考古学上の宝物が悠然と出現した感じがする。吉野ケ里のように復元して，考古学の島として発展してほしい」といった意見にみられるように，このシンポジウムに対して前向きな評価が多く，より一層，遺跡の保存と活用を願う意見もあった。一般の参加者数は約1,000名を数え，立ち見の方も出るなど盛況であった。　（荒　井）

8　日韓交流史理解促進事業

平成14年度，長崎県は慶尚南道との派遣交流を実施した。また，平成13年度に実施できなかった済州道文化財担当者受け入れも本年度実施することになった。その概要は以下のとおりである。

1　長崎県から派遣

① 期　　間　　平成14年11月４日（月）～11月17日（金）

② 派遣職員　　長崎県教育庁学芸文化課　主任文化財保護主事　川道　寛

　　長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所　文化財保護主事　藤村　誠

③ 調査研究テーマ　埋蔵文化財（遺跡・遺物）等を通してみた日韓交流史の調査研究

④ 調査研究概要　　慶尚南道の遺跡・遺物の現地調査，発掘調査，博物館・資料館等の視察

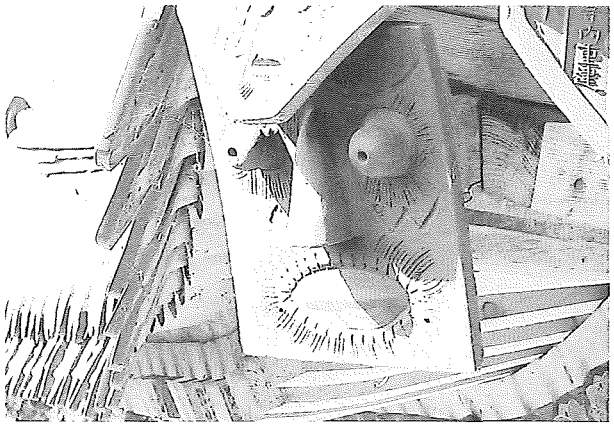
⑤ 検査研究（派遣）日程

月	日	曜	視　察　場　所	所在地
11	4	月	出国	
11	5	火	城山貝塚，茶戸里遺跡，南山遺跡，道渓洞古墳群，昌原大学校博物館，上南支石墓群，外洞支石墓	昌原市
11	6	水	道項里・末山里古墳群，中洞里古墳群，宜寧博物館，慶南大学校博物館，慶南発展研究院，馬山市博物館	咸安郡，宜寧郡，馬山市
11	7	木	加佐洞遺跡，慶尚大学校博物館，晋州城跡，国立晋州博物館，南江ダム	晋州市
11	8	金	熊川邑城，安骨倭城，熊川窯跡	鎮海市
11	9	土	首露王陵，首露王妃陵，亀旨峰支石墓，国立金海博物館，鳳凰洞遺跡	金海市
11	10	日		
11	11	月	松鶴洞古墳群，勒島遺跡，船津里城	固城郡，泗川市
11	12	火	東亜大学校博物館，東三洞貝塚，東義大学校博物館	釜山広域市
11	13	水	密陽市立博物館，古礼里遺跡，表忠寺，サルレ遺跡	密陽市
11	14	木	通度寺聖宝博物館，通度寺，梁山北亭里古墳群，梁山新基里古墳群	梁山市
11	15	金	昌寧博物館，校洞里古墳群，石氷庫，新羅真興王拓境碑，昌寧支石墓，一里遺跡	昌寧郡
11	16	土	釜山大学校博物館	釜山広域市
11	17	日	帰国	

⑥ 研修内容

今年度の交流相手である慶尚南道は，韓国の東南部に位置し，東を蔚山広域市・釜山広域市，北を慶尚北道，西を全羅南道に囲まれている。道庁の所在する昌原市は，人口約34万人，機械・自動車・航空宇宙産業などを主要産業とする工業都市である。周辺の農村部では，柿・梨・ナツメなどの果物が特産品として知られている。

校洞里古墳群



嶺南楼の瓦

2週間の研修期間に，大学校博物館6，国立・郡立などの博物館8，遺跡36，発掘調査9という非常に多くの施設・現場を観覧・研修させていただいた。韓国では好景気を反映して，アパート建設，高速道路・国道建設などのインフラ整備が急ピッチで進められており，それに伴う発掘調査がいたるところで実施されていた。韓国では，発掘調査を行う機関としては大学校博物館・博物館・道立や財団の発掘調査組織などがある。近年は発掘調査組織に主体が移りつつあり，慶尚南道には慶南発展研究院，慶南文化財研究院，慶南考古学研究所の3組織がある。馬山市に本部のある慶南発展研究院には32名の職員がおり，大学院生を中心に雇用しており，現場責任者の中に大学校新卒者がいるなど構成年齢が非常に若いのが特徴である。道庁は発掘調査は行わず，もっぱら開発との調整や史跡整備などの管理を行っているが，埋蔵文化財担当職員は辛　勇旻氏（今回来崎）一人で，慶尚南道全体を対象とするということで多忙を極めていた。

発掘調査は開発に伴うものが大部分で，調査原因がアパート建設や高速道路建設などのため丘陵全体が調査対象となることが多く，調査面積も膨大である。基本的には試掘調査後，翌年本調査という形をとっており，12月が年度の終わりということで，見学した現場の多くも時間に追われていた。慶尚南道では雪はあまり降らないので，冬でも発掘調査を実施するということであったが，相当に寒く調査は難渋するということであった。また，重要な遺構などの検出があった場合は，現地説明会（指導委員会）が行われ，活版の説明会資料がカラー印刷で作成されている。

遺跡の整備復元と併行して，遺跡の中に博物館・資料館が建設される事例が多いことも印象に残った。建設中もしくは計画段階のものとして，咸安道項里・末山里古墳群，金海市大成洞古墳群，固城松鶴洞古墳群，南海郡勒島遺跡，泗川船津里城などが同時並行で進んでいた。博物館建設とともに学芸員の配置なども考慮されており，史跡の整備にかける慶尚南道の熱意が感じられた。

2　慶尚南道職員の受け入れ

① 期　　間	平成15年2月9日（日）～2月22日（土）
② 慶尚南道派遣職員	慶尚南道文化芸術課　文化財専門職　辛　勇旻
	昌寧博物館　学芸研究士　金　錫煥
③ 調査研究テーマ	埋蔵文化財（遺跡・遺構）等を通してみた韓日交流史の調査研究
④ 調査研究概要	長崎県内の遺跡・遺物の現地調査，発掘調査，博物館・資料館等の視察

⑤ 調査研究（受け入れ）日程

月	日	曜	行　　程	対 応 者
2	9	日	福岡空港着→吉野ケ里遺跡→宿舎	川道・藤村
2	10	月	宿舎→学芸文化課→長崎奉行所跡→出島和蘭商館跡	川　道
2	11	火	宿舎→天久保支石墓→九州陶磁資料館→畑の原窯跡	川　道
2	12	水	宿舎→原山支石墓→原城跡→雲仙復興記念館	川　道
2	13	木	宿舎→ひさご塚古墳・彼杵荘資料館→門前遺跡	川　道
2	14	金	宿舎→狸山支石墓→福井洞穴→平戸和蘭商館跡→田平町郷土資料館	川　道
2	15	土	宿舎→福岡市埋蔵文化財センター→九州歴史資料館→太宰府政庁跡→金隈資料館	川　道
2	16	日	宿舎→鴻臚館→福岡市博物館	川　道
2	17	月	宿舎→峰町郷土資料館→三根遺跡→木坂石棺群	藤　村
2	18	火	宿舎→対馬歴史民俗資料館→金石城跡→壱岐	藤　村
2	19	水	宿舎→原の辻遺跡→勝本城跡→掛木古墳→カラカミ遺跡→車出遺跡	藤　村
2	20	木	宿舎→原の辻遺跡→鬼の窟古墳→双六古墳→笹塚古墳→百合畑古墳群→対馬塚古墳	藤　村
2	21	金	宿舎→呼子→名護屋城博物館→福岡	川　道
2	22	土	宿舎→福岡空港	川　道

3 済州道職員の受け入れ（平成13年度交流分）

① 期　間　　平成14年11月21日（木）～11月25日（月）

② 済州道派遣職員　　済州道文化芸術課　主任　金　明徹

　　国立済州道民俗自然史博物館　研究員　高　才元

③ 調査研究テーマ　　島嶼部における遺構・遺物から見た日韓交流史の調査研究

④ 調査研究概要　　長崎県内の遺跡・遺物の現地調査，発掘調査，博物館・資料館等の視察

⑤ 調査研究（受け入れ）日程

月	日	曜	行　　程	対応者
11	21	木	長崎→福江市→五島観光歴史資料館→堂崎遺跡→白浜貝塚→寄神貝塚→三井楽貝塚	荒　井
11	22	金	福江市→長崎市（学芸文化課）→里田原遺跡資料館→里田原遺跡→名護屋城博物館→壱岐	荒　井
11	23	土	原の辻遺跡調査事務所→カラカミ遺跡→双六古墳→笹塚古墳	町　田
11	24	日	壱岐→対馬→万松院→金石城跡→金田城跡	町　田
11	25	月	峰町歴史民俗資料館→山辺遺跡→越高遺跡→比田勝港→釜山	町　田

（荒　井）

三　調査の動向

1.〔調　査〕

2002年度の長崎県における発掘届等の件数は224件である。発掘調査の届け（58条の２）は41件，学術調査は４件であった。ここ２～３年は以前に比べて半減しており調査自体が著しい減少傾向にあることは否めない。

今年度の特筆すべきこととして，対馬峰町の三根遺跡・井手遺跡を舞台として日韓共同の発掘調査が実施されたことがあげられる。峰町の日韓交流事業の一環で，韓国側から東亜大学校の朴広春教授ほか19名が参加して，講演会・遺物検討会などを含めて好評を博した。韓国の大学が日本で発掘することは初めてのことであり，日韓考古学の新しいページが開かれたといえよう。

旧石器時代

平戸市入口遺跡は良好な堆積状況に恵まれており，３層から４層にかけてメノウを素材とする石器群が検出された。黒曜石を用いない非黒曜石石器群であることや定型石器をもたないこと，層位的に下層から出土すること等から判断して古期の旧石器時代石器群と考えられている。今後は自然科学分析等とも連携した研究が必要である。

国見町小ヶ倉Ｂ遺跡は著名な百花台遺跡の北に位置し，標高150ｍ前後。扁平な細石核（茶園型）を主体とする後期旧石器時代終末のほぼ単純な細石器文化期の石器が検出された。細石核・打面再生剥片・細石刃等若干出土したものの削器・掻器などの石器類を全く欠いており，その性格は不明である。同町石原遺跡では原の辻型の台形石器２点，ナイフ形石器３点が出土した。同じく十園遺跡では，剥片尖頭器２点・ナイフ形石器２点がＡＴ直上から，百花台型台形石器３点がその上位から出土している。

佐世保市菰田洞穴は後期旧石器時代と縄文時代早期の複合遺跡である。洞穴はいわゆる前庭部をもたないところからベースキャンプには不向きであり，両時代を通じてキャンプサイト的な利用が想定される。旧石器時代の遺物は約500点出土しているが，ナイフ形石器や台形石器と思しき石器が出土しているが定型的な石器には乏しい。

縄文時代

国見町小ヶ倉Ａ遺跡は前述した小ヶ倉Ｂ遺跡の北に位置する。開地遺跡でありながら縄文草創期の土器と細石器が共伴して出土した。土器は押引文土器（刺突文土器）とよばれるもので，口唇部直下に二股になった工具で刺突して文様を施したものである。口唇部には斜めの刻みを入れたものもある。土器は精選された胎土で焼成が良いものの400点のほとんどが小破片であり，個体数では３～４個体であろう。共伴した細石核は，楔形であるが形態的にみて細石器文化の最終末のものであろう。同じく国見町の石原遺跡からは押型文土器の壺の肩部分の破片が出土した。

佐世保市菰田洞穴からは，土器は検出できなかったものの草創期末と考えられる平基の三角鏃が数点出土しているほか，早期押型文土器文化層が発達しており，炉跡などの遺構とともに大量の石鏃とスクレイパーが出土している。

壱岐湯本湾の最奥部の潮間帯に位置する勝本町松崎遺跡が調査された。早期から後期にかけての土器群が出土しており，報告者は10群34類に分類している。特筆すべき点は押型文土器（田村段階）が

確認できたことである。これが現時点で壱岐島で最も古い縄文土器である。また韓半島新石器時代の隆起文土器も出土している。平戸瀬戸に臨む平戸市供養川遺跡は潮間帯の遺跡である。早期から晩期にかけての遺物が出土しているが，ほぼ単純な形で西唐津式土器（プロト曽畑）を検出している。

長崎市深堀遺跡からは，前期の曽畑式土器をはじめ中期の春日式・並木式土器に類する土器群や石鏃・石鋸をはじめとする豊富な石器群が出土している。

九州大学が小値賀島の総合的な調査を実施した。殿崎遺跡の調査では，前期末～中期初頭の瀬戸内系土器，後期前葉の阿高式系の坂の下Ⅱ式土器，縁帯文系土器，北久根山式・鐘崎式土器などが出土した。石器は石鏃・剥片鏃・磨製石斧・石皿などが出土している。

弥生時代

小値賀町神ノ崎遺跡で37号墓が発掘された。支石墓と考えられ，130×110×20cmの上石を除去すると3個の支石がある。下部構造は土坑であるが，遺物は出土していない。支石墓とすれば北隣する宇久島の宇久松原遺跡とともに支石墓流入期の墓制として評価されよう。

長崎市深堀遺跡では墓域が発掘され，イモ貝製貝輪や管状骨製品を着装した人骨が出土した朱を施した土壙墓や舟形を呈する石棺墓など様々な形態のものが19基検出されている。

国見町十園遺跡が圃場整備事業に伴って発掘された。濠3条・竪穴式住居跡4棟が検出された。住居跡のうち2棟は中期から後期のかけてのもので，直径12mを測る大型の円形住居跡である。残る2棟は弥生時代終末から古墳時代にかけてのもので一辺4～5mの方形住居跡で，床面直上から鉄滓が出土している。濠は1本が中期から後期にかけて，残り2本が終末から古墳時代のかけてのものであり，後者からは鉄鏃・鉄滓が出土している。

対馬峰町で峰町教育委員会と韓国の東亜大学校との合同調査が実施された。対象となった遺跡は，三根遺跡・井手遺跡の2ヶ所で，この事業は韓国の大学・研究機関にとって初めての日本での発掘調査となった。

西九州道路建設の伴う調査で佐世保市門前遺跡から弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての墓地群が検出された。箱式石棺墓・石蓋土坑墓など17基からなり，赤色顔料が塗布された墳墓もあり，10基からは朝鮮半島で製作された鉄剣1本・素環頭刀子4本，勾玉1点，管玉3点，ガラス玉287点が出土した。墓の周辺からは中国製の異体字銘帯鏡も出土しており，この地方の拠点的な集落であった可能性が高い。調査が進めば集落の本体が明らかになる可能性もある。

国の特別史跡原の辻遺跡からは，2匹の竜が線刻された後期後葉の小形壺，2例目となるココヤシ製笛，銅鐸の舌などが興味深い遺物が出土している。

古墳時代

遺跡整備に伴って壱岐勝本町の笹塚古墳・対馬塚古墳が調査された。笹塚古墳では石室の調査が実施されたが，後室および石棺内はすでに掘削されており原位置を保った遺物はなかった。前室と中室のコーナーから金箔が集中的に出土するとともに統一新羅の硬質土器が出土した。古墳の時期については従来の6世紀終末までに築造され7世紀終わりころまで使われたとする見解を支持する結果であった。対馬塚古墳でも石室の調査が実施され，玄室および前室から原位置を遊離した人骨が出土した。人骨は盗掘時に動かされたと考えられ，また土壌化が進行しており全体的に取り上げが難しかった。

古　代

対馬美津島町の金田城跡の調査も10年を経過し，全体像がみえつつある。本年度は東南角石塁付近が調査された。突出部は三ノ城戸から南100mに位置しており，築造当時のものと思われる。またその上段からは掘立柱建物跡が2棟検出されている。その内部からは7世紀後半の須恵器約300点が出土した。

中　世

鷹島町鷹島海底遺跡の調査は毎年新知見をもたらしているが，今年度は文字資料に注目するものがあった。なかでも「王百戸」銘墨書青磁碗の出土は，「管軍総把印」についで，元の軍団編成を示す例として貴重である。「□元年殿司修検視訖官（花押）」と銘のある漆塗り木製品は，船体の上部構造の一部と考えられている。また大型船の部材と考えられる隔壁板などが出土し，以前出土した碇等を考慮すると40～45mクラスの巨大船が想定できるらしい。

長崎市深堀遺跡からこの時期のきわめて珍しい遺物が2例出土している。一つは12～13世紀ころと思われる滑石製の羽口である。もう一例はキリシタン関係と見られる花十字紋鬼瓦である。従来花十字紋瓦は軒丸瓦がほとんどでしかも旧長崎市内に限定されてきたところであり，その分布域の広がることなど注目に値する。

近　世

大村市三城城跡は，キリシタン大名大村純忠が築城したとされ，1599（慶長4）年の玖島城築城まで大村市の居城であった。保存整備のため曲輪Ⅱおよび南帯曲輪部分の確認調査が実施された。曲輪Ⅱ東端部分から掘立柱建物4棟，土塁，堀底道，石列などの遺構が検出された。出土した遺物としては，16世紀後半から17世紀初頭の輸入・国産陶磁器・土器類，臼などの生活用品，瓦・銃弾などがある。

島原市森岳城跡の三の丸東堀端が調査され，溝跡・石組遺構・土坑・集石・瓦溜り・掘立柱建物跡・柱穴列・井戸跡などの遺構が検出された。出土遺物は大甕や擂り鉢，粗製の染付碗が目立ち，上手のものがほとんどないことや蹄鉄・轡など絵図にいう「御厩」を証明する資料であろう。

南松浦郡南有馬町原城跡の調査で島原の乱の一揆軍が籠城したと思われる半地下式の建物跡が石垣に沿って9区画が連なる形で検出された。この遺構の検出によって従来烏合の衆とみられていた一揆軍が統制のとれた組織的なものということができ，島原の乱の見直しにつながるものと期待されている。

平戸和蘭商館復元整備事業に伴って1637年築造石造倉庫の第一次発掘調査で，倉庫石壁の基礎とみられる砕石を敷いた溝が検出された。それは1600年代にオランダでレンガ建造物の工法と同様のものという。

歴史文化博物館（仮称）建設に伴って調査された長崎奉行所跡から正門にあたる石段および石畳・石垣がほぼ原型のまま検出されたほか，奉行所に伴う遺構やそれ以前の遺構など数多くの遺構が検出された。当時の長崎奉行の生活を物語る大量の遺物が出土している。有田・波佐見・長与などの肥前陶磁器や京都・信楽などの国産陶磁器のほかヨーロッパ産のワインボトルや中国景徳鎮産の西洋食器や十手などが出土している。

長崎市出島和蘭商館跡でも整備復元の調査が行われている。今年度は，カピタン部屋跡・乙名部屋跡・三番蔵跡などが調査され，カピタン部屋跡には洋式拳銃と弾丸が埋納されていた。

その他

長崎県教育委員会は10月20日，東京読売ホールで「原の辻遺跡　特別史跡指定記念シンポジウム発掘「倭人伝」」を開催した。シンポジウムは東アジア世界と海の王都，壱岐・原の辻遺跡というテーマのもと，一支国の王都・原の辻遺跡を介して行われた中国・韓国と日本列島との交流の姿を明らかにした。会場には1,000人もの考古学ファンがつめかけ盛況のうちに終了した。

原の辻大学講座「一支国探訪」は３年目を迎えた。今回は大村市・平戸市・佐世保市で実施し，それぞれ酒井龍一（奈良大学教授）・佐古和枝（関西外国語大学助教授）・甲元眞之（熊本大学教授）が講演した。また原の辻遺跡から出土した「人面石」にちなんで「人面石の叫び！！」標語コンクールが行われ，日本全国から4,800点の応募があり，10点が入賞した。さらに壱岐原の辻調査事務所ではＤｒハル「みんなで学ぼう原の辻」が実施され，６回の講座は内容が多岐にわたり，聴衆を大いに魅了した。

11月23・24日に南高来郡小浜町小浜会館において『第28回九州旧石器文化研究会』が，「旧石器時代の韓半島と九州」というテーマで開催された。韓国から気鋭の旧石器研究者を招待し，九州地方と韓半島を直接対比して，交流の接点を探ろうとした研究会で九州内外から多くの参加者を得て盛会裡に終えることができた。

また長崎県考古学会は，総会と大会を開催した。総会では，原の辻遺跡・三城城跡・出島跡・千里ヶ浜遺跡・供養川遺跡の発掘調査の概要報告がなされ，活発な質疑があった。大会は，「大村湾周辺における弥生～古墳時代にかけての埋葬施設」という主題を掲げ，講演と事例発表がなされた。蒲原宏行氏が「九州西北部の古墳について」という演題で講演を，寺田正剛氏の「西北九州における弥生時代の石棺墓の様相」，竹中哲朗氏が「大村湾沿岸を中心とする古墳の様相について」，下田省吾氏が「ひさご塚古墳の調査について」以上３本の事例が発表された。

２．〔文献一覧〕

報告書

１．荒井春房『長崎県埋蔵文化財調査年報10』長崎県文化財調査報告書第171集　長崎県教育委員会

２．扇浦正義『勝山町遺跡』　長崎市教育委員会

３．扇浦正義『唐人屋敷跡』　長崎市教育委員会

４．大野安生他『黒丸遺跡ほか発掘調査概報』大村市文化財調査報告書第25集　大村市教育委員会

５．小田富士雄他『国史跡矢立山古墳群』厳原町文化財調査報告書第7集　福岡大学考古学研究室・厳原町教育委員会

６．遠部慎他『妙見床』南串山町文化財調査報告書第５集　南串山町教育委員会

７．河合勇吉『原の辻遺跡』石田町文化財調査報告書第６集　石田町教育委員会

８．川内野篤『菰田洞穴』　佐世保市教育委員会

９．塩塚浩一『市内遺跡確認調査報告書』　平戸市教育委員会

10．白石純悟『戸田遺跡・車出遺跡』郷ノ浦町文化財調査報告書第５集　郷ノ浦町教育委員会

11．高田美由紀『国指定史跡出島和蘭商館跡』　長崎市教育委員会

12. 塚原　博『野首遺跡』小値賀町文化財調査報告書第17集　小値賀町教育委員会
13. 中尾篤志他『特別史跡原の辻遺跡』芦辺町文化財調査報告書第14集　芦辺町教育委員会
14. 長崎県教育委員会編『日韓交流史理解促進事業報告書　平成14（2002）年度』日韓交流史理解促進事業実行委員会
15. 中田敦之・明石拡子『史跡松浦党梶谷城跡確認調査報告書』松浦市文化財調査報告書第19集　松浦市教育委員会
16. 馬場聖美『里田原遺跡』田平町文化財調査報告書第９集　田平町教育委員会
17. 藤村　誠・中尾篤志『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第26集　長崎県教育委員会
18. 古門雅高・田中淳也『古代朝鮮式山城　金田城跡Ⅱ』美津島町文化財調査報告書第10集　美津島町教育委員会
19. 本田秀樹・川口洋平『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ』長崎県文化財調査報告書第172集　長崎県教育委員会
20. 本田秀樹・本多和典『森岳城跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書第173集　長崎県教育委員会
21. 宮下雅史『シーボルト宅跡発掘調査概報』　長崎市教育委員会
22. 村川逸朗・井立　尚『供養川遺跡』長崎県文化財調査報告書第174集　長崎県教育委員会
23. 山口　優『特別史跡原の辻遺跡』芦辺町文化財調査報告書第15集　芦辺町教育委員会

論　文

24.『泉福寺洞穴研究編』泉福寺洞穴研究編刊行会
- 下川達彌「麻生優先生と佐世保」
- 久村貞男「泉福寺洞穴への道」
- 中島真澄「長崎県の洞穴遺跡の特徴と泉福寺洞穴周辺の遺跡」
- 森醇一朗「伊万里湾周辺の洞穴遺跡」
- 下川達彌・萩原博文「泉福寺洞穴における空間利用の変遷－西北九州における洞穴遺跡の機能変化について－」
- 中束耕志「泉福寺洞穴における爪形紋土器文化層の遺物分布－「原位置論」　集合組成から集中分布へ－」
- 萩原博文「土器出現期における生活面の区分と出土遺物の特徴」
- 立平　進「洞穴埋葬墓について」
- 木﨑康弘「九州細石器文化考－泉福寺洞穴遺跡の位置づけをめぐって－」
- 荒井幹夫「九州における草創期石器群の二者」
- 出居　博「細石刃の生産・使用・消費－泉福寺洞穴出土資料の分析から－」
- 岡本東三「九州島の細石器文化と神子柴文化」
- 川道　寛「豆粒文土器単純層は存在した－泉福寺洞穴第３・４・５トレンチの層位的再検討－」
- 白石浩之「泉福寺洞穴における豆粒文土器と隆線文土器」
- 町田勝則「泉福寺洞穴５層・６層を考えるにあたり」
- 高橋　敦「(遺稿）泉福寺洞穴の爪形文土器と押引文土器」
- 元井　茂「石鏃出現期の様相－泉福寺洞穴出土の石鏃をめぐって－」

・木下　修「条痕文土器について」
・副島邦弘「泉福寺洞穴の押型文土器について」
・斎藤基生「石鏃について」
・中村由克・石井久夫・松橋　均「佐世保市周辺の第四紀地質と洞穴の形成時期」
・吉谷昭彦・久村貞男「泉福寺洞穴から出土した黒曜岩の微量元素組成からみた原産地特定について」
・今成進一・領塚正浩「泉福寺洞穴の発掘と整理－参考資料が語る14年間の軌跡－」
25.『九州旧石器』第６号　－下川達彌先生還暦記念特集号－
講演・研究発表要旨
・李起吉「韓国西南部の旧石器文化－代表遺跡と編年－」
・張龍俊「韓半島の石刃技法と細石刃技法」
・木﨑康弘「旧石器時代文化の変遷と中期旧石器的要素の変容」
・吉留秀敏「九州における剥片尖頭器の出現と展開」
・川道　寛「九州地方の細石器研究の現状と課題」
下川達彌還暦記念献呈論文
・綿貫俊一「九州の旧石器時代後期初頭石器群」
・木﨑康弘「ナイフ形石器文化の変遷と中期旧石器的要素の変容」
・萩原博文・塩塚浩一「平戸市入口遺跡の旧石器時代石器群－ナイフ形石器文化以前の探求－」
・宮田栄二「南九州ナイフ形石器文化の集団と領域に関する予察－西丸尾遺跡を遺した集団の活動領域と移動－」
・荻　幸二「九州地方の角錐状石器の製作技術に関する一考察（２）」
・重篭遺跡発掘調査団「長崎市重篭遺跡発掘調査報告」
・辻田直人「長崎県国見町出土の旧石器遺物（資料紹介）」
・川道　寛「茶園遺跡の再評価（１）－位牌塔型と茶園型の間に－」
26. 扇浦正義「近世貿易港としての長崎とベトナム」『近世日本交流史』柏書房
27. 扇浦正義「長崎出島と旧市街地出土のオランダ貿易遺物」『掘り出された都市』日外アソシエーツ
28. 尾上博一「壱岐・対馬および長崎の古墳の様相」『第6回九州前方後円墳研究会　前方後円墳築造周縁域における古墳時代社会の多様性』
29. 片岡宏二「対馬の弥生文化について」
30. 塩塚浩一「入口遺跡・694地区発掘調査」『平戸市史研究』第7号
31. 下川達彌「原城特別展～地下に眠る信仰のあかし～に寄せて」『地下に眠る信仰のあかし』南有馬町
32. 沈奉謹（田中聡一訳）「弥生時代の対馬と韓国」
33. 萩原博文・前田秀人「平戸オランダ商館の実態と発掘調査」『掘り出された都市』日外アソシエーツ
34. 松本慎二「原城」『考古学ジャーナル』№493　ニューサイエンス社

35. 宮崎貴夫「北部九州地域（3）・原の辻遺跡」
その他
36.『佐世保市史』通史編上巻
・下川達彌「第1編　原始時代・考古編　序章　佐世保考古学研究史」
・萩原博文「第1編　原始時代・考古編　第1章　旧石器時代」,「第2章　縄文時代　第3節8・9・10」
・川道　寛「第1編　原始時代・考古編　第2章　縄文時代」
・稲富裕和「第1編　原始時代・考古編　第3章　弥生時代」
・秀島貞康「第1編　原始時代・考古編　第4章　古墳時代」
・久村貞男「第1編　原始時代・考古編　第5章　洞穴と人　第1節　洞穴遺跡」
・内藤芳篤「第1編　原始時代・考古編　第5章　洞穴と人　第2節　佐世保の古人骨」
・橋本幸男「第2編　古代編　第3章　仏教遺跡」
・吉福清和「第3編　中世編　第5章　佐世保市域の中世城館」
・大石一久「第3編　中世編　第6章　佐世保の中世・石造美術」
・宮下雅史「第4編　近世編　第9章　近世窯業遺跡」
37.『西彼町郷土史』
・下川達彌「第Ⅱ部　郷土の歴史　第1章　西彼町の原始・古代」
38.『長崎県考古学会報』No.11
・正林　護「飯盛古墳は単独古墳か」
・村川逸朗「南松浦郡有川町採集“栫ノ原型石斧”と平戸市供養川遺跡出土の磨製石斧について」

（川　道）

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧①

No.	報　告　書　名	発行年月
第１集	長崎県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧	1962,
第２集	五島遺跡調査報告	1964,
第３集	民俗資料調査報告書	
第４集	福井洞穴調査報告（図録編）	1966,
第５集	深堀遺跡	
第６集	男女群島特別調査報告	1968,3
第７集	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968,3
第８集	対馬－豊玉村佐保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告－	1969,
第９集	宮下遺跡調査報告（解説編）	
第10集	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970,9
第11集	有明海沿岸地区の民俗	1972,3
第12集	長崎県の民家（前編・後編）	1972,3
第13集	対馬西岸阿連・志多留の民俗	
第14集	里田原遺跡（図録）	1972,
第15集	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974,3
第16集	対馬の文化財	
第17集	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974,3
第18集	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974,
第19集	壱岐の文化財	
第20集	対馬の遺跡	1975,
第21集	里田原遺跡	1975,3
第22集	下五島の文化財	
第23集	長崎県民俗地図	1976,3
第24集	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第１集（図録編）	1975,
第25集	里田原遺跡	1976,3
第26集	原の辻遺跡	1976,
第27集	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977,1
第28集	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977,3
第29集	長崎県のカトリック教会	1977,3
第30集	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977,
第31集	原の辻遺跡（Ⅱ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977,3
第32集	里田原遺跡	1977,
第33集	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977,3
第34集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
第35集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978,
第36集	世知原町開作免の民俗	1978,3
第37集	原の辻遺跡（Ⅲ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978,
第38集	里田原遺跡	1978,
第39集	日蘭関係資料	1979,3
第40集	平戸・上五島地区の文化財	1979,3
第40集の2	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979,3
第41集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979,3
第42集	長崎県の海女（海士）	1979,3
第43集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979,3
第44集	松浦市とその周辺地区の文化財	1979,3
第45集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979,
第46集	大村湾の漁労習俗	1980,3
第47集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980,3
第48集	キリシタン関係資料	1980,3
第49集	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979,
第50集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980,
第51集	串島遺跡	1980,3
第52集ａ	ケイマンゴー遺跡	1980,9
第52集ｂ	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981,3
第53集	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981,3
第54集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981,
第55集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981,3
第56集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982,
第57集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982,
第58集	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982,3
第59集	島原・南高の文化財	1982,3

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧②

No.	報　告　書　名	発行年月
第60集	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982,3
第61集	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982,3
第62集	長崎・西彼の文化財	1983,3
第63集	橘湾の漁労習俗	1983,3
第64集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983,
第65集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983,3
第66集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983,3
第67集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984,3
第68集	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第一冊	1984,3
第69集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984,
第70集	長崎県の農具調査（前編）	1985,3
第71集	名切遺跡	1985,3
第72集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985,
第73集	西ノ角遺跡	1985,
第74集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985,
第75集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ	1985,
第76集	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第77集	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第二冊	1985,
第78集	百花台遺跡	1985,3
第79集	長崎県の近世社寺築　　近世社寺建築緊急調査報告書	1986,3
第80集	長崎県の農具調査（後編）	1986,3
第81集	上原遺跡	1986,
第82集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986,3
第83集	殿崎遺跡	1986,
第84集	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第三冊	1986,3
第85集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986,3
第86集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1987,3
第87集	長崎県遺跡地図	1987,3
第88集	長崎県の民謡	1987,3
第89集	温泉岳　保存管理計画策定書	1988,3
第90集	中道壇遺跡	1988,3
第91集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ	1988,3
第92集	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988,3
第93集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989,
第94集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989,3
第95集	魚洗川Ｂ遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1990,3
第96集	長崎県の諸職調査	1990,3
第97集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990,3
第98集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990,
第99集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991,
第100集	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1991,3
第101集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ	1991,3
第102集	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991,3
第103集	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991,3
第104集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992,3
第105集	上大垣遺跡	1992,3
第106集	県内古墳詳細分布調査報告書	1992,3
第107集	大陸渡来文物緊急調査報告	1992,3
第108集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ	1993,3
第109集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993,3
第110集	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－	1994,3
第111集	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994,3
第112集	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994,3
第113集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994,3
第114集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994,3
第115集	中木場遺跡－水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994,3
第116集	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994,3
第117集	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995,3
第118集	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995,3
第119集	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995,3
第120集	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995,3

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧③

No.	報　告　書　名	発行年月
第121集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995,3
第122集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995,3
第123集	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995,3
第124集	原の辻遺跡	1995,3
第125集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996,3
第126集	伊木力遺跡Ⅰ	1996,3
第127集	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－	1996,3
第128集	中木場遺跡Ⅱ－水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996,3
第129集	中木場遺跡Ⅲ－水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996,3
第130集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996,3
第131集	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997,3
第132集	黒丸遺跡Ⅱ	1997,3
第133集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997,3
第134集	伊木力遺跡Ⅱ	1997,3
第135集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997,3
第136集	稗田原遺跡Ⅰ	1997,3
第137集	広平遺跡	1997,3
第138集	桟原城跡	1997,3
第139集	石田城跡	1997,3
第140集	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998,3
第141集	大浜遺跡	1998,3
第142集	蒲河遺跡	1998,3
第143集	沖城跡	1998,3
第144集	桜町遺跡	1998,3
第145集	稗田原遺跡Ⅱ	1998,3
第146集	長崎奉行所（立山役所）跡	1998,3
第147集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998,3
第148集	長崎県埋蔵文化財調査年報５	1998,3
第149集	馬乗石遺跡	1998,3
第150集	長崎県埋蔵文化財調査年報６	1999,3
第151集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999,3
第152集	稗田原遺跡Ⅲ	1999,3
第153集	長崎県のカクレキリシタン－長崎県カクレキリシタン習俗調査事業報告書－	1999,3
第154集	長崎街道－長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書－	2000,3
第155集	長崎県埋蔵文化財調査年報７	2000,3
第156集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	2000,3
第157集	稗田原遺跡Ⅳ	2000,3
第158集	長崎県埋蔵文化財調査年報８	2001,3
第159集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ	2001,3
第160集	平野遺跡	2001,3
第161集	稗田原遺跡Ⅴ	2001,3
第162集	栄町遺跡	2001,3
第163集	石田城跡Ⅱ	2001,3
第164集	長崎県埋蔵文化財調査年報９	2002,3
第165集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅴ	2002,3
第166集	森岳城跡	2002,3
第167集	玖島城跡	2002,3
第168集	千里ヶ浜遺跡	2002,3
第169集	歴史の道整備活用推進事業　長崎街道整備活用計画報告書	2002,2
第170集	長崎県の祭り・行事調査報告書	2002,3
第171集	長崎県埋蔵文化財調査年報１０	2003,3
第172集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ	2003,3
第173集	森岳城跡Ⅱ	2003,3
第174集	供養川遺跡	2003,3
第175集	長崎県埋蔵文化財調査年報１１	2004,3
第176集	地域拠点遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	2004,3
第177集	長崎奉行所（立山役所）跡－歴史文化博物館（仮称）建設に伴う発掘調査報告書－	2004,3
第178集	今屋敷家老屋敷跡	2004,3
第179集	下木場遺跡	2004,3
第180集	日蘭関係資料Ⅱ～県外編～	2004,3
第181集	長崎県の近代和風建築－長崎県近代和風建築総合調査報告書	2004,3

五　平成９年度から平成14年度にかけての事業別発掘調査届出件数の推移

		平成９年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
緊急調査	道路	１２	１２	１５	８	７	６
	河川	１	１	２	１	０	０
	学校	２	４	４	１	１	１
	住宅・宅地造成	１５	１０	２８	１３	３	３
	工場	０	０	１	３	０	０
	店舗等	０	２	０	５	０	０
	その他建物	９	３	５	１３	２	４
	土地区画整理	２	３	０	０	０	０
	公園造成	２	１	２	１	０	１
	ゴルフ場	０	０	０	０	０	０
	観光開発	０	０	１	１	０	０
	ガス等	１	１	０	２	３	２
	農業関連	３０	２３	３４	２１	９	４
	土砂採取	０	０	０	０	０	０
	その他開発	２１	１４	１４	８	２	２
	自然崩壊	０	１	０	０	０	０
	遺跡地図作成等	０	０	２	０	０	０
	保存目的	０	０	０	６	１３	１４
	確認試掘	０	０	０	０	０	０
	遺跡整備	３	２	１	０	２	２
学術研究		０	２	６	７	８	６
合計		９８	７９	１１５	９０	５０	４５

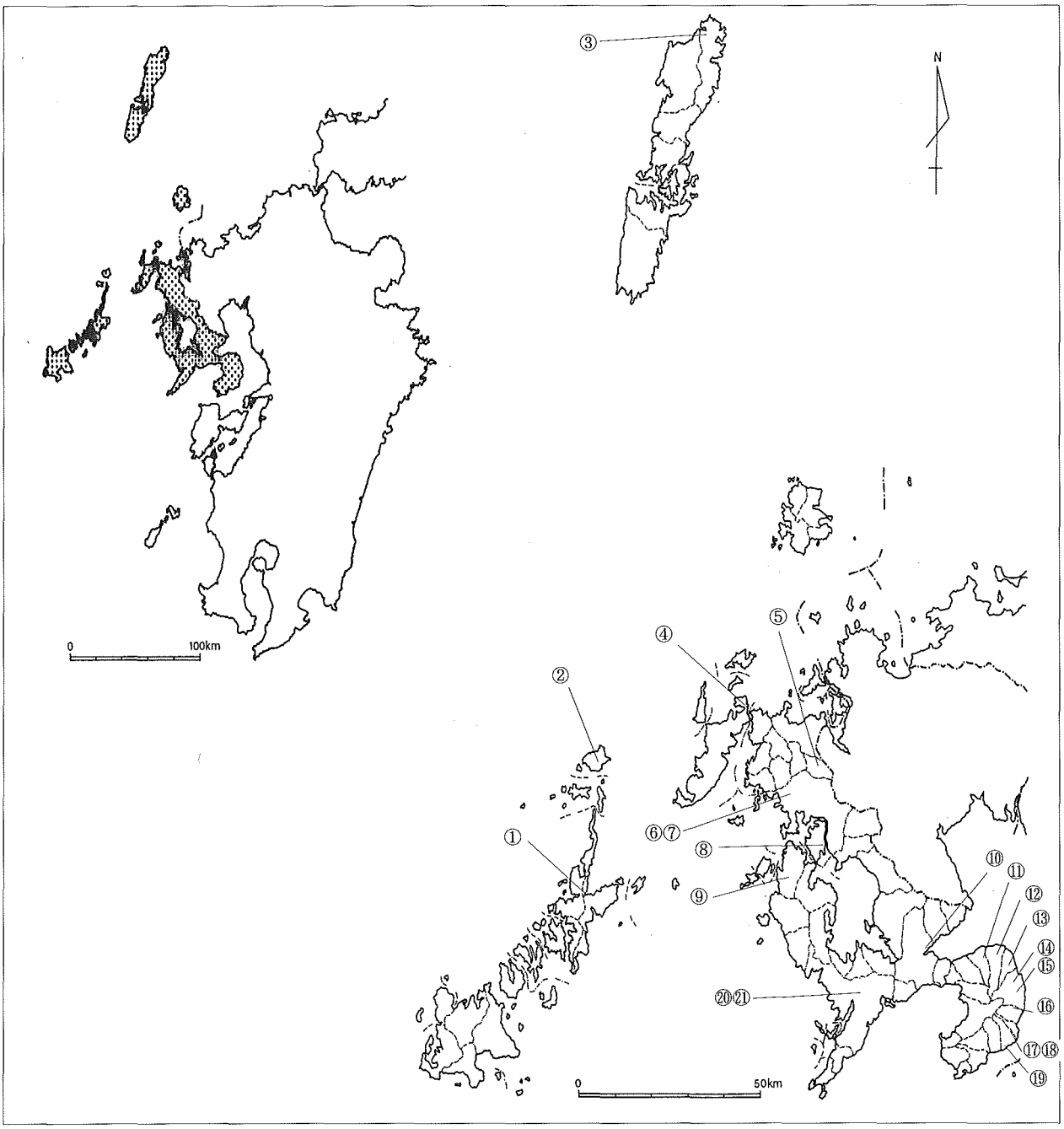
平成９年度から平成14年度にかけての県市町村別職員数の推移

	平成９年度		平成１０年度		平成１１年度		平成１２年度		平成１３年度	
区分	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村
職員数	17(3)	34(10)	17(3)	33(11)	16(5)	36(6)	17(7)	42(4)	16(5)	43(5)

	平成１４年度	
区分	県	市町村
職員数	17(5)	47(10)

（　）は嘱託等を示す外数である

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成14年度長崎県内発掘調査箇所

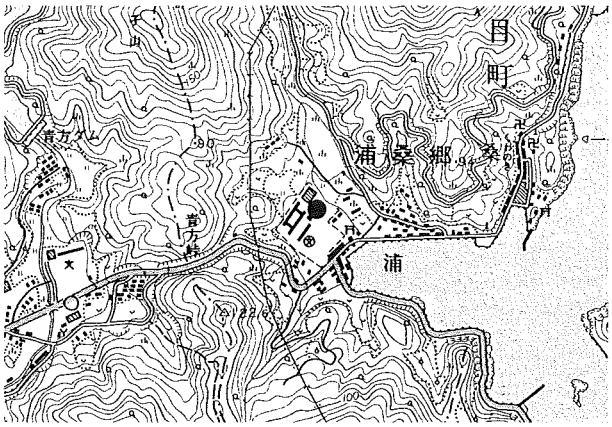
①西ノ股遺跡	(新魚目町)	⑧葉山遺跡	(佐世保市)	⑮森岳城跡	(島 原 市)
②コロノコ遺跡	(宇 久 町)	⑨中浦城跡	(西 海 町)	⑯権現脇遺跡	(深 江 町)
③結石山城跡	(上対馬町)	⑩西常盤遺跡	(諫 早 市)	⑰野中遺跡	(有 家 町)
④供養川遺跡	(平 戸 市)	⑪伊古遺跡	(瑞 穂 町)	⑱下木場遺跡	(有 家 町)
⑤下開作遺跡	(世知原町)	⑫百花台遺跡周辺	(国 見 町)	⑲貝森遺跡	(有 家 町)
⑥門前遺跡	(佐世保市)	⑬大野原遺跡	(有 明 町)	⑳長崎奉行所跡	(長 崎 市)
⑦門前遺跡	(佐世保市)	⑭畑中遺跡	(島 原 市)	㉑岩原目付屋敷跡	(長 崎 市)

①西ノ股遺跡（にしのまた）

所 在 地	南松浦郡新魚目町浦桑郷字西ノ股	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	上五島高校武道場改築工事	**調査面積**	8 ㎡
調査期間	平成14年６月３日～６月６日（４日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

本遺跡は，新魚目町の南部，有川湾に面した海岸低地に立地する。有川湾のもっとも湾奥にあり，山がちな上五島では数少ない平坦地を形成している。有川湾内には，小さな入江が多数存在するが，遺跡は浦という入江に面する。遺跡は現在，県立上五島高校の敷地を中心に広がり，標高は3～15ｍである。上五島高校の南東には祖父君神社が鎮座し，付近からは遺物も表採されている。



西ノ股遺跡位置図［有川］（S=1/25,000）

調　査

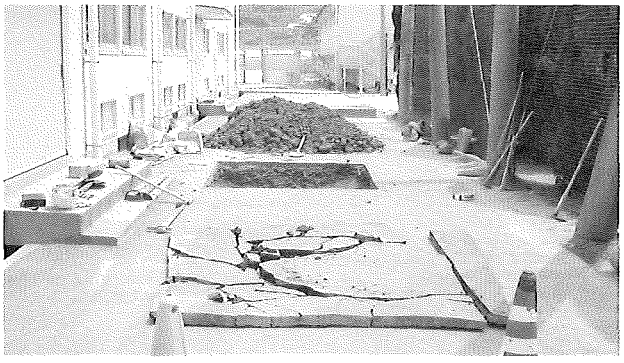
調査は，当初武道場および第２体育館周辺に２ｍ×２ｍの試掘坑を３箇所設定する予定であったが，１箇所は鉄筋のコンクリート敷きであったため調査を断念した。あとの２箇所はアスファルト敷きであったためコンクリートカッターで切断したあと掘り下げた。２箇所の試掘坑のうち，武道場側を第１試掘坑（TP１），第２体育館とグラウンドの間のものを第２試掘坑（TP２）とした。第１試掘坑は50㎝下げたところで湧水にあい作業を中断した。第２試掘坑は現地表面からアスファルト，砂利の整地層，客土，旧水田の耕作土（黒灰色粘質土）と続くが，試掘坑内から遺物の出土はなかった。第２試掘坑の体育館側は客土後に，水道管埋設のために攪乱をうけていた。攪乱層内からも遺物の出土はなかった。今回の試掘は狭い範囲のわずかな面積であったため，遺跡の範囲を確定するまでには至らなかった。上五島高校の校舎およびグラウンドは古くは水田，水田造成以前は低湿地で，居住適地であったかは疑問である。したがって西ノ股遺跡の範囲は，宮の川と城山に挟まれた平坦地に限定されることも考えられる。

まとめ

以上の調査結果から，武道場の改築工事には支障はないと判断した。

[調査担当：古門・上原，調査協力：新魚目町教育委員会・長崎県立上五島高等学校]

（文責：古門）



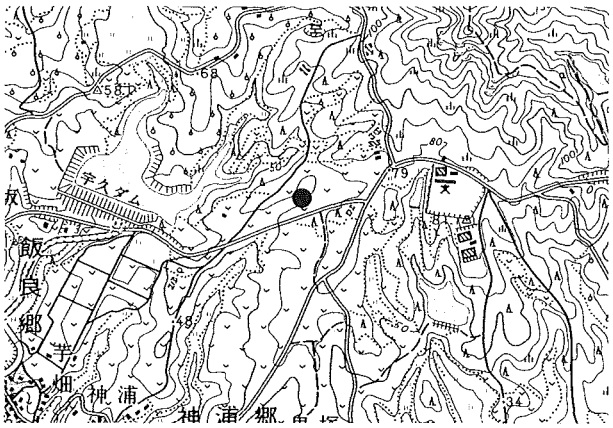
ＴＰ２南から

②コロノコ遺跡

所 在 地	北松浦郡宇久町飯良	調査主体	宇久町教育委員会
調査原因	畑地帯総合整備事業	調査面積	108㎡
調査期間	平成14年７月15日～８月２日（15日間）	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	調査後，工事

立　地

コロノコ遺跡は，宇久町の西に位置し，神浦湾を眼下に見下ろす標高50～60ｍの低丘陵地に立地する。丘陵は長年の浸食作用によって大小の谷がいくつも入り込んでいる状況がみられ，起伏も激しい。当該地の東には宇久ダムをはさむようにして，コロノコ遺跡がある。コロノコ遺跡隣接地の現状は雑木林が多いが，遺跡周辺部は水田や畑地として現在も機能している土地が多い。



コロノコ遺跡位置図［宇久］（S=1/25,000）

調　査

調査は２ｍ×４ｍの試掘坑をコロノコ遺跡隣接地は７箇所，コロノコ遺跡内では６箇所，計13箇所設定して行った。ここでは，遺物が出土した試掘坑のみを記述する。第３試掘坑では表土下に拳大の礫を含む客土，その下に旧耕作土，そして地山に至る。近世陶磁器の細片が数点出土した。畑地造成にともなう攪乱が見られる。第６試掘坑では，表土の下に２枚の土層を確認した。客土ではなく，耕作土に近い土質である。近世陶磁器片を包含しており，一部には攪乱が見られた。第11・12・13試掘坑は地形改変を免れた畑地で，現状はゆるやかな傾斜地をなす。表土の下に黄褐色土が存在し，第12試掘坑からは黒曜石片数点および黒曜石製の石鏃が１点出土した。しかし，同層からは，近世陶磁器片やキセル雁首なども出土し，良好かつ安定した遺物包含層とはいえない。第２層の下は地山となる赤褐色粘質土層の風化土である。

まとめ

コロノコ遺跡では，旧地形や自然地形が残っている箇所で若干の遺物が出土したが，良好な包含層とはいえない状況であった。事業対象地であるコロノコ遺跡隣接地は土地の改変作業が顕著で，自然地形や旧地形が良好に残っている場所はないと判断された。さらに，これまで地元郷土史家の熱心な踏査にもかかわらず，遺物が採集されていないという現状から，新たな埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性は少ないと判断した。［調査担当：古門，泊（宇久町教育委員会）］（文責：古門）

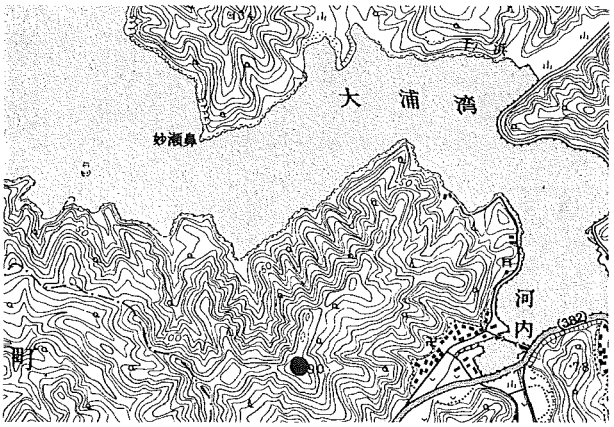
調査風景

③結石山城跡（ゆいしやまじょうあと）

所 在 地	上県郡上対馬町	**調査主体**	上対馬町教育委員会
調査原因	生活環境施設整備事業	**調査面積**	60㎡
調査期間	平成15年２月17日～３月７日（19日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

結石山城跡は上対馬町の北西部，大浦湾の南側に位置する。山頂からは朝鮮海峡の眺望がよくきく。結石山城跡の縄張りは少なくとも２つの曲輪をもち，いずれも馬の背中状の丘陵尾根をカットして階段状に成形したものである。山頂部は主郭と思われ円形の広場を形成する。２段目以下は馬蹄形の平坦部を形成する。本山城の特徴は，曲輪斜面に半円形に石塁を構築していることで，同一レベルに半円形の石塊を古墳の葺石状に貼り付けている。また，西側に張り出す丘陵部にも石塁がみられるが，こちらは遺存状況が良好である。



結石山城跡位置図［泉］（S=1/25,000）

調　査

石塁は西側，南西側，南東側５箇所で確認できる。石材が集中するところが平場斜面に限られること，石材の集中が半円形で途中で両端が切れ集中が終わること，他の斜面には見られないこと，一定の標高の間に存在することなどから石塁と判断した。山頂平場の西側半分部分では梁行２間，桁行５間の礎石立建物跡を検出した。柱間は約1.8m，梁行3.6m×桁行9.0mと比較的規模が大きい。残存する礎石は７個であるが礎石の平面は平らで，長軸40～60cmの平石を用いている。また，調査区の北東部では岩盤を刳抜いた３基のピットを検出した。いずれも直径20～30cmほどで，深さは10cmほどと浅い。遺構の性格としては柵列などが考えられる。主郭の中央トレンチでは性格不明ピットが単独で出土した。その他，人工的な集石も確認された。

まとめ

結石山城跡は，少なくとも２つないし３つの曲輪を有する中世山城であると考えられる。第１曲輪には礎石が残り，曲輪斜面には土留めの石塁ないし石積みが良好に残存する。このため，工事にあたっては，現状を出来る限り残した形での工事計画が強く望まれる。

［調査担当：古門・井立］（文責：古門）

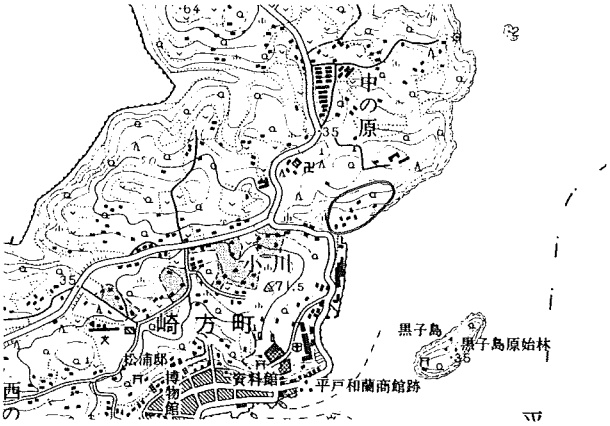
二の曲輪

④供養川（くようがわ）遺跡

所 在 地	平戸市大久保町供養川	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	平戸港海岸保全工事	**調査面積**	410 ㎡
調査期間	平成14年６月３日～８月20日（79日間）	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成14年度刊行	**処　　置**	調査後，工事

立　地

供養川遺跡は平戸市北部の大久保町に所在し，平戸瀬戸の急潮域に面する潮間帯の遺跡である。遺跡よりやや南に平戸和蘭商館跡があり，さらに南に平戸城を望む。平戸瀬戸を挟み田平町側対岸には，つぐめのはな遺跡が所在する。この地域には，砂岩・泥岩・凝灰岩からなる平戸層が分布し，供養川遺跡に堆積する砂の供給源と考えられる。



供養川遺跡位置図［平戸］（S=1/25,000）

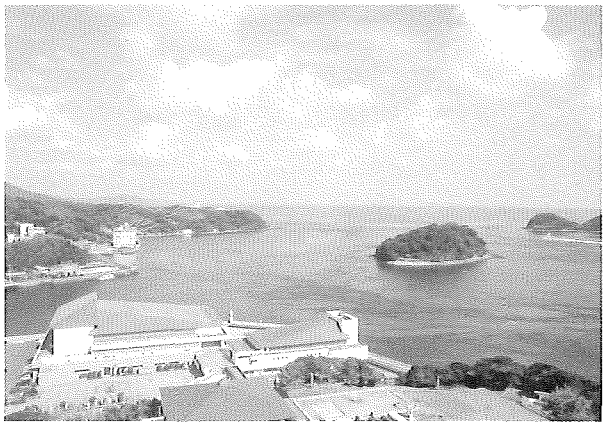
調　査

調査区をＡ～Ｌまで，それに直交する形で，０・１・２と記号を付しグリッド法による調査を開始したが，Ｆ，Ｇ，Ｈ－１・２区を中心として遺物含層が認められた。基本層序は次のとおり。表土層，赤褐色粘質土層，灰青色砂礫層，黒褐色砂礫層・黒褐色混貝砂礫層（曽畑式土器文化期層），黒褐色混貝砂礫層（西唐津式土器文化期層），黒褐色砂層，礫層である。調査の結果，近接する平戸和蘭商館跡関連の遺物の出土は見られなかったものの，縄文時代前期の轟Ｂ式土器・西唐津式土器（プロト曽畑）・曽畑式土器，また縄文晩期の土器などが多量に出土した。また，大型の石錘，石鏃，黒曜石製石核，磨製石斧，有孔砥石等の石器類，シカ・イノシシ・アシカ等の獣骨類，アワビ・サザエ・オオコシダカガンガラ等の貝類も出土している。さらにＪ・Ｋ－１区では，側辺部に比較的大きな円礫を並べ面をそろえた石垣遺構および側溝を検出したが，石垣最下層からは近現代の陶磁器が出土することから，これらの遺構については近現代以降に構築されたものと考えられる。

まとめ

調査の結果，供養川遺跡は縄文時代前期の生活の状態を窺うことのできる保存状態の良い遺跡であることが判明した。特に平戸島において西唐津式土器がまとまって出土したのは今回が初めてであり，平戸島の縄文時代前期の様相については明らかにされていない点が多いだけに，今後の調査成果が待たれるところである。

[調査担当：村川・本田・井立・樋口](文責：荒井)

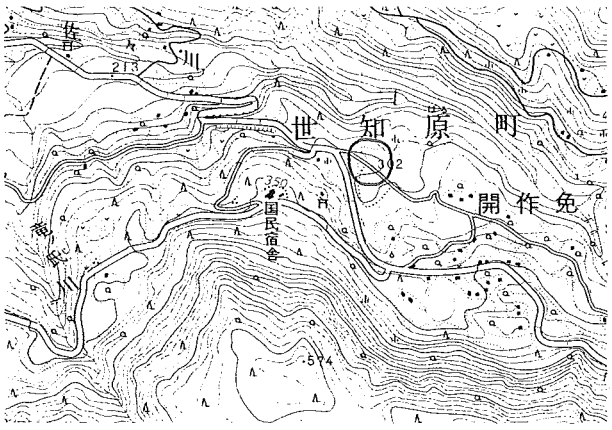

遺跡遠景

⑤下開作遺跡（しもかいさく）

所 在 地	北松浦郡世知原町開作免	**調査主体**	世知原町教育委員会
調査原因	交流基盤整備事業	**調査面積**	52㎡
調査期間	平成14年10月28日～10月31日（４日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

下開作遺跡は，世知原町開作免に所在する遺跡として周知されている。標高は約300ｍで，遺跡の東側を国道202号が通っている。今回の調査地点は，既に圃場整備により旧地表面から１ｍ程度が削平されており，水田化のために整地されている。



下開作遺跡位置図［蔵宿］（S=1/25,000）

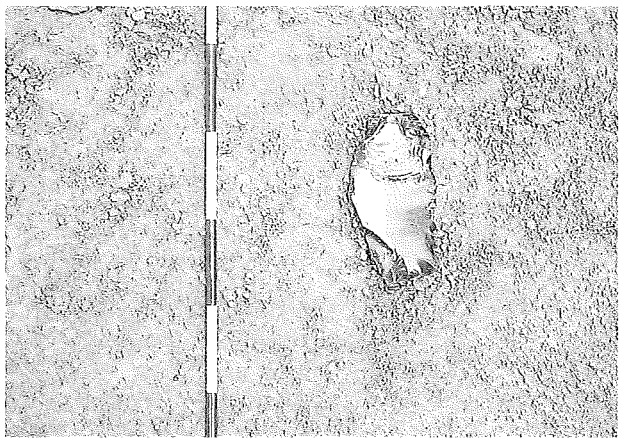
調　査

削平された旧水田面に12の試掘坑，段丘の先端部で削平されていない部分に１箇所の試掘坑を設定して調査を実施した。一段低い部分に設定した第12試掘坑は，旧河川を埋めていることが判明した時点で調査を終了した。第１から第６試掘坑は墓地脇の進入路から入った所である。いずれの試掘坑でも良好な風化土層があることから包含層の存在が期待されたが，残念ながら包含層は削平されていた。そうした状況は，第７から第11試掘坑においても同様であった。削平した面に若干の盛土をして水田を作っているが，その中に遺物が包含されていることから，削平される以前にはこの地が遺物包含層であったことが推測される。

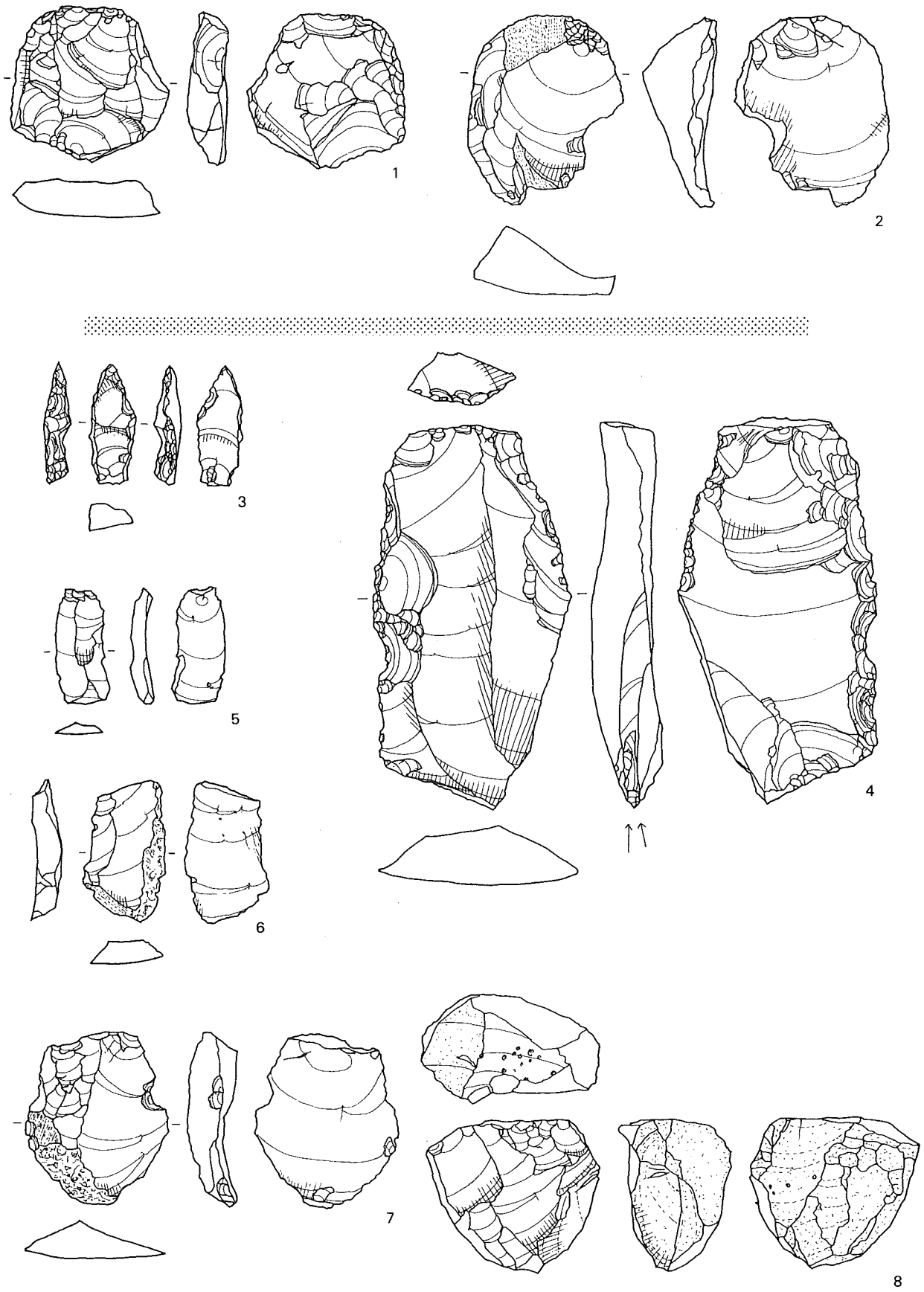
まとめ

今回の調査地点は，前述したように盛土されており工事に支障はないものと思われる。下開作遺跡の本体は，過去の圃場整備で削平され消滅していると推測されるが，墓地及び段丘先端部の疎林部分には良好な包含層が残存していることが明らかになった。特に第13試掘坑は旧石器時代から縄文時代の遺物が層位的に検出されており，その周辺への広がりが想定できる。したがって，墓地と段丘先端部が工事にかかる場合には，発掘調査の必要がある。

［調査担当：川道］（文責：川道）



旧石器出土状況（第13試掘坑）



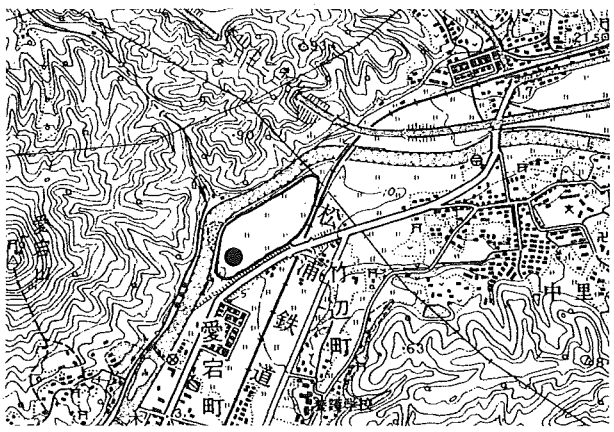
石器実測図（s=2/3　上段：1，2縄文時代，下段：3～8旧石器時代）

⑥門前遺跡（もんぜん）

所 在 地	佐世保市愛宕町・中里町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	**調査面積**	6,700㎡
調査期間	平成14年７月11日～15年３月31日（264日間）	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成17～19年度刊行予定	**処　　置**	継続調査

立　地

遺跡は，佐世保市北西部の相浦川中流域の標高８ｍの沖積地上に立地している。遺跡北西側の河川対岸には佐世保砂岩の露頭が多く見られ，岩陰などが形成された要素のひとつとなっている。近隣には四反田遺跡や下本山岩陰遺跡などの主要な遺跡が多数散在し，相浦川流域が古くから生活の場として有効に利用されてきた痕跡を残している。遺跡から相浦川の河口までの距離は約2.5㎞と外海と非常に近く，中世では朝鮮半島との貿易の要地として利用されており，河口西側の沿岸部では江戸時代以降水銀が採掘されたとの記録も残っている。



門前遺跡位置図［佐世保北部］(S=1/25,000)

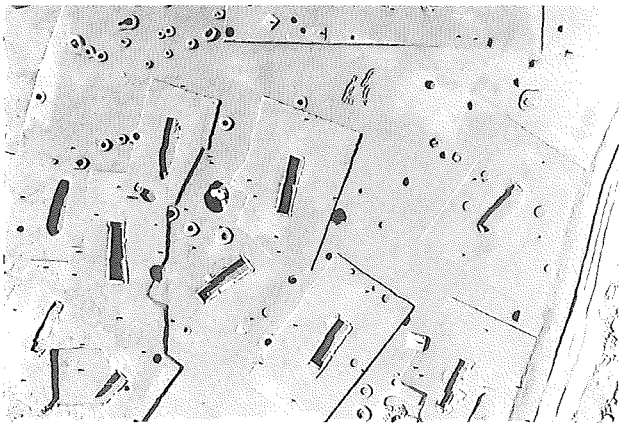
調　査

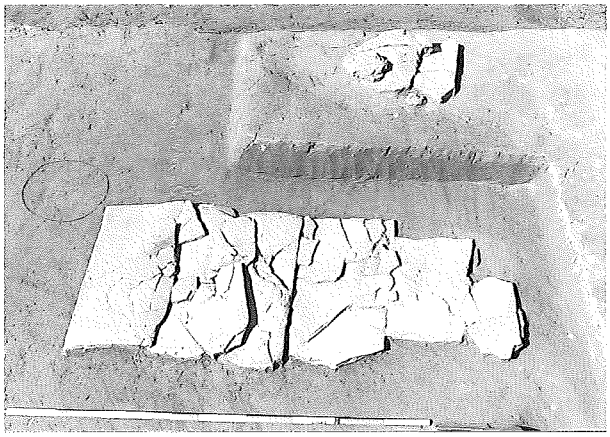
平成14年度の調査は，１層の耕作土と２層の平成５年度圃場整備工事の時の整地層を重機で掘削した後，座標系に合わせ，100ｍの大グリッドと20ｍの中グリッドを設定し番号を付し，調査を開始した。その結果，縄文時代後期，晩期，弥生時代前期から後期，中世，近世の遺構や遺物が確認された。

縄文時代の主な遺構や遺物としては，後期・晩期の住居跡，柱穴群，集石遺構，炭化物土壙などの遺構と，坂の下式土器，黒川式土器などの土器類，紡錘車などの土製品類，組合せ式石銛，石鏃，打製石斧などの石器類が出土している。特に組み合わせ式石銛は，径２ｍ程度の範囲の中に集中して出土しており，大型の海獣の捕獲に使用したと考えられている。

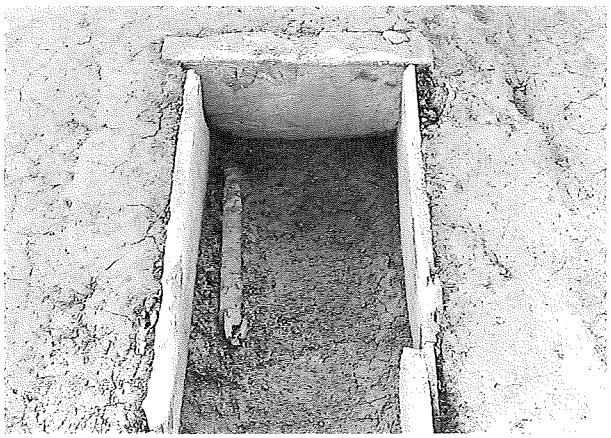
弥生時代の主な遺構や遺物としては，弥生時代後期の墓地，溝，土器溜り，柱穴群などの遺構と，墓からの副葬品類，土器，木器，金属器などが出土している。

墓の種類としては箱式石棺墓が７基，石蓋土壙墓２基，無蓋土壙墓２基，集石墓５基，石囲墓１基である。そのうちの６基に水銀朱やベンガラの付着が見られた。また，副葬品として鉄剣１本，素環頭刀子４本，勾玉１点，管玉３点，ガラス玉１点，ガラス小玉238点が出土している。

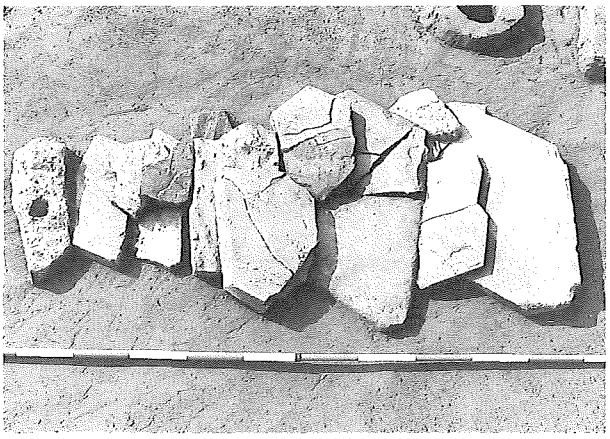

弥生時代後期の墓地



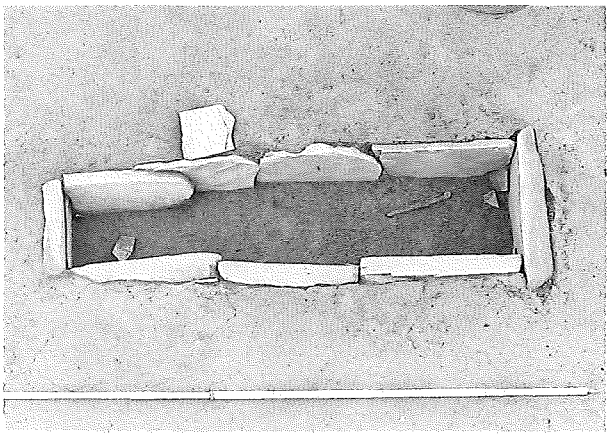
第11号箱式石棺墓



第11号箱式石棺墓内検出状況

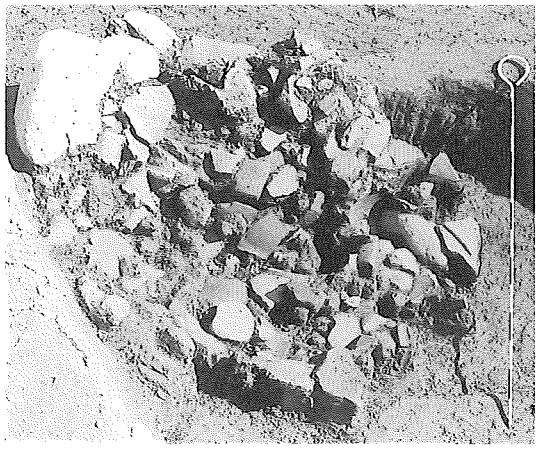


第14号箱式石棺墓（上部構造）



第14号箱式石棺墓（下部構造）

土器溜りは「コ」の字形に配置された円礫に傾斜状に土器が張りついて出土し，焼土や炭化物が中に含まれていることから，カマドとしての機能が考えられている。また，その周辺の包含層からは中国前漢代の青銅鏡片が，腐植土層中からは弥生時代前期から後期にかけての多量の土器と共に，石庖丁や木製の鍬や鋤，鉄鏃など出土している。



土器溜り

中世のおもな遺構や遺物としては，平安時代末期から鎌倉時代前半にかけての溝や焼土，鎌倉時代前半以降に構築された石堤遺構などの遺構や，中国製白磁碗や土師器皿，石鍋などの遺物が出土している。

まとめ

今年度の調査では，主に弥生時代後期の独立した墓域が確認され，赤色顔料や鉄製品，玉類などの出土から，この地域の首長の墓である可能性がある。また，周辺から出土した弥生土器の量や，農耕具などの出土から考えると，近隣に大規模な集落や水田遺構などが推測され，今後の調査で墓域の全貌と集落の規模や構造が明らかになるものと考えられる。

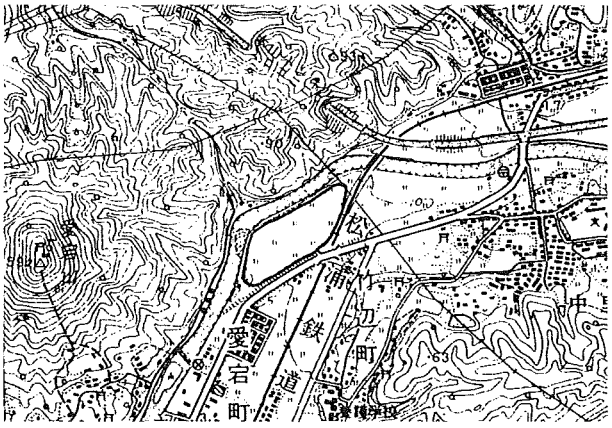
［調査担当：副島・寺田・栗山・織田・北原・平岡］（文責：寺田）

⑦門前遺跡（もんぜん）

所 在 地	佐世保市愛宕町・中里町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号建設工事	**調査面積**	96㎡
調査期間	平成15年３月10日～３月26日（17日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成17年度刊行予定	**処　　置**	次年度以降本調査

立　地

遺跡は，佐世保市北西部の相浦川中流域の標高８ｍの沖積地上に立地している。遺跡北西側の河川対岸には佐世保砂岩の露頭が多く見られ，岩陰などが形成された要素のひとつとなっている。付近には下本山岩陰や四反田遺跡といった縄文時代から弥生時代までの遺跡が多く見られる。遺跡から相浦川の河口までの距離は約2.5㎞と外海に非常に近く，中世では朝鮮半島との貿易の要地として利用されてきた地域でもある。



門前遺跡位置図［佐世保北部］（S=1/25,000）

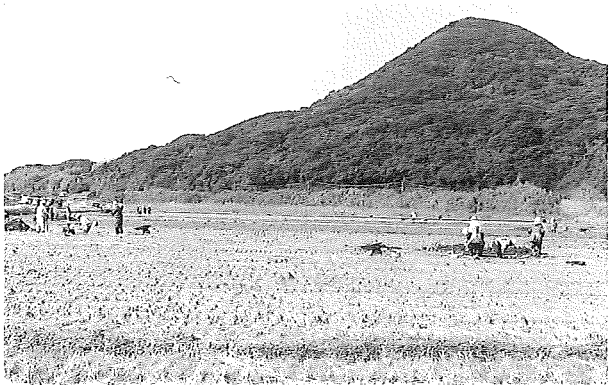
調　査・まとめ

座標系に合わせ，南北を主軸とする100ｍの大グリッドを設定し，東西へＡ，Ｂ～，南北へ１，２～と番号を付した。その後，20ｍ方眼で中グリッドを設定し，北西から順に１～と番号を付した。中グリッドの20ｍ方眼の交点，24箇所に２×２ｍの試掘抗を設定し，範囲確認調査を行った。

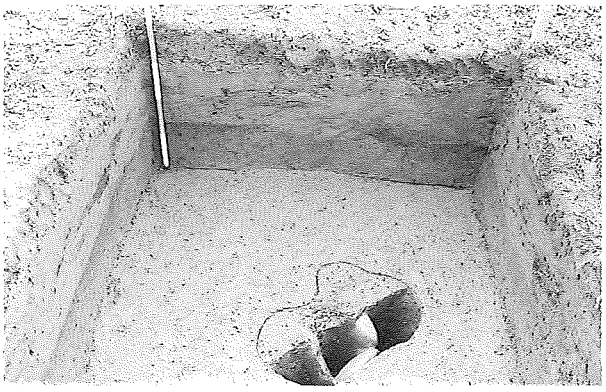
その結果，調査区南東側を中心として，旧丘陵地形が残っており，縄文時代後期の遺物包含層，弥生時代後期の遺構および遺物包含層が確認された。また，調査区北西側を中心として，木片などの腐植土層が表面下約140㎝～180㎝下から検出された。その他の試掘抗では，耕作土や整地層を含め，攪乱層が非常に厚く，その下はすぐに礫層が続いたため，遺物包含状況は良好ではなかった。

以上のことから，調査区南側の微高地では住居跡などの遺構，北西側の低湿地部分では木製品などの弥生時代の遺構・遺物が発見されることが予察される。

［調査担当：副島・寺田・栗山・織田・北原・平岡］（文責：栗山）



遺跡遠景



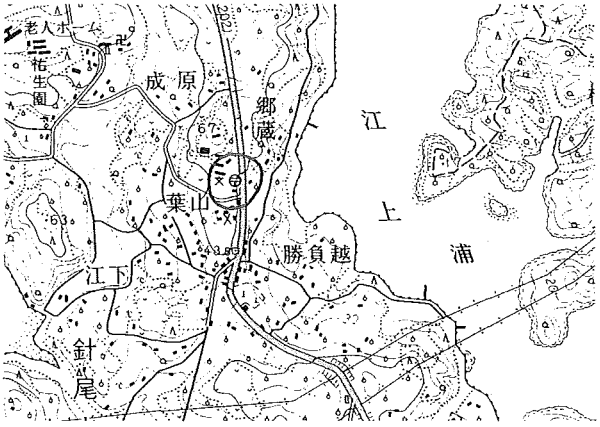
柱穴検出（TPE-8-21）

⑧葉山（はやま）遺跡

所 在 地	佐世保市針尾東町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	早岐警察署針尾駐在所庁舎新築工事	**調査面積**	14㎡
調査期間	平成14年６月24日～６月28日（５日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

葉山遺跡は，佐世保市針尾東町に所在する縄文時代の遺跡として周知されている。標高は約40mで，遺跡の東側を国道202号が通っている。今回の調査地点は平面プランが三角形をした窪地となっていたものを昭和30年代に盛土して国道と同レベルにしたものである。今回の調査は針尾駐在所の新築工事に伴う範囲確認調査である。



葉山遺跡位置図［川棚］（S=1/25,000）

調　査

現地の地形から最も可能性の高い地点に第１・第２トレンチを設定して調査に入ったが，その後地権者からの聞き取りで，この部分が最も盛土（５～６ｍ）をしたことが判明したため途中で調査を終了し埋め戻した。その後，第３トレンチを南側に設定した。この部分は周辺の状況から盛土が最も浅いと思われる地点であった。当初２ｍ×２ｍで調査したが，作業が困難であったため南側に１ｍ幅で拡張した。２ｍ余りの盛土を掘り抜くとようやく旧地表面に到達した。旧地形は水田として使用されたと考えられ，粘土層を掘り抜くとその下には水田造成時の盛土が明らかになり，一抱えほどある大礫が混じるようになったところで調査を断念し，埋め戻しをして調査を終了した。

まとめ

以上のことから，今回の調査地点については工事に支障がないものと判断したが，工事中に遺構・遺物等が発見された場合には，直ちに県教育委員会学芸文化課または佐世保市教育委員会へ連絡・協議願いたい。葉山遺跡の本体は，針尾郵便局から針尾小学校にかけての一帯と考えられる。郵便局脇の畑からは縄文時代の黒曜石製の剥片類が現在でも採集できる。また，国道東側の畑は，遺跡の範囲には含まれていないが，みかん畑の造成によって遺物が地表に露出している。それらは縄文時代晩期から弥生時代中期の土器・石器類が大部分である。一部縄文時代早期にも遡るものも散見される。こうしたことから，葉山遺跡はこの地域まで広がるものと思われる。

遺跡近景

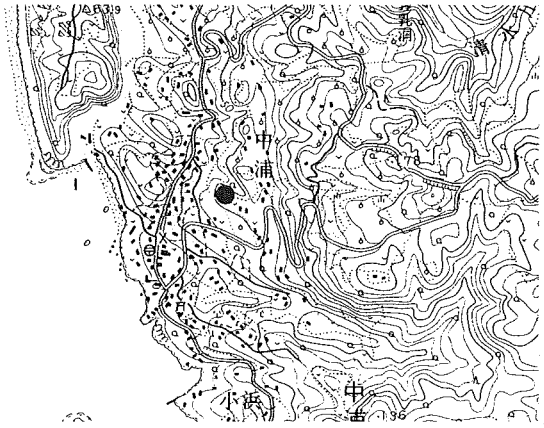
［調査担当：川道］（文責：川道）

⑨中浦城跡（なかうらじょうあと）

所 在 地	西彼杵郡西海町中浦北郷字825番地	**調査主体**	西海町教育委員会
調査原因	保存目的の範囲内容確認調査	**調査面積**	50㎡
調査期間	平成14年11月18日～11月22日（5日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

本遺跡は西彼半島の北部に位置する西海町の南西部にあり，現地は眼下に七ツ釜湾を望み，北は寺島水道，南は角力灘に続く。標高約65mの丘陵に位置し，天候に恵まれれば，遠く五島灘を介して五島列島を望むことができる。丘陵は海岸に向かって舌状に張り出していたが，昭和60年代の国道工事により，先端部と基部を残してほとんど削平されている。今回の調査地は，舌状丘陵の基部にあたり，現状は約40m×30mの楕円形の平場である。



中浦城跡位置図［面高］（S=1/25,000）

調　査

調査は，過去の造成時に廃棄された残土の調査とトレンチ調査を実施した。残土の調査は，重機で残土中の石塊を除去した後，人力で土砂を集めフルイにかけて遺物を探すという形で実施したが，中・近世の遺物やそれ以前の時代の遺物もまったく検出されなかった。トレンチ調査は，聞き取りにより，現状の平場が昭和40年代にほとんど削平されていると判断したため，3箇所に試掘坑を設定し地下の状況を観察した。平場の中央付近に設定した第1・第2トレンチからは石塊や大量の礫が出土したが，出土状況から，これらの石材は一斉に投棄されたものと判断された。第3トレンチは，削平が及んでいないと推定される地点である。調査の結果，トレンチの半分から旧表土が検出されたが，平場中央部に近い範囲からは，他の2箇所のトレンチと同様の攪乱と石材が廃棄された状況がみられた。

まとめ

調査をおこなった平場からは中近世遺物が一切出土せず，通常であれば遺跡とはいえない状況であったが，来年度に隣接地の調査を実施し，確定させる予定である。

［調査担当：古門・岸本（西海町教育委員会）］
（文責：古門）

作業風景

⑩西常盤（にしときわ）遺跡

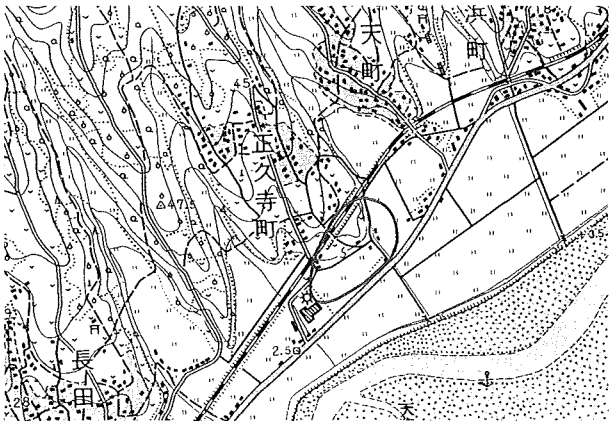
所 在 地	諫早市正久寺町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般県道多良岳線改良工事	**調査面積**	44㎡
調査期間	平成14年12月９日～12月13日（５日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

西常盤遺跡は平成５年に周知された遺跡である。

調　査

平成８年白雪食品の工場建設に伴い諫早市教育委員会が発掘調査を実施しており，縄文後期の貝塚の存在を明らかにした。今回，県道多良岳線の改良工事に伴い国道207号にインターチェンジ建設が計画されたので，範囲確認調査を実施することになった。工事予定地内の水田に約20ｍ間隔で11ヶ所の試掘坑を設定した。



西常盤遺跡位置図［諫早］（S=1/25,000）

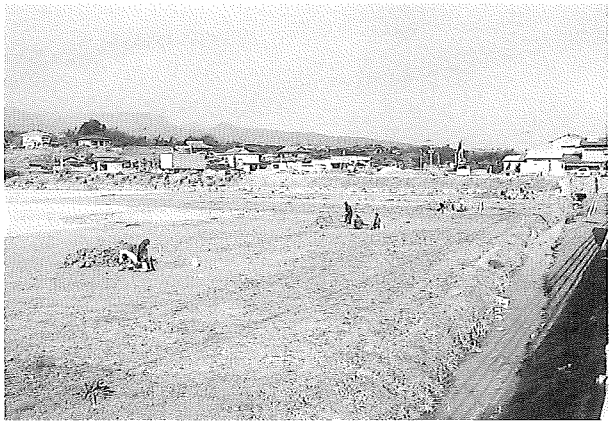
水田の表面で標高は約80～90㎝程度であり，諫早市教育委員会が調査した西常盤貝塚と比較すると50㎝以上も低い。また，調査にあたっての協議の中で耕作土の下は潟土であるとの情報を得たので，貝層の広がりは見られないことが想定された。案の定，調査した全ての試掘坑から人工遺物の出土は１点もなかった。調査範囲全体には４層とした灰青色を呈する海成の粘質に乏しいシルト質土層が広がっている。本層は微細に破砕された貝殻片を大量に含み，その中に小石の多い海岸に棲むウミニナの完形の貝殻が大量に混入する。またアゲマキガイなどの二枚貝も完形で検出している。こうしたことから，本層は全く人為物を含まない自然貝層と判断した。

今回の調査では，貝塚の存在を明らかにできなかったが，以前に調査された貝塚を伴う遺跡は，多良岳から伸びる丘陵が有明海に没する標高1.5ｍの丘陵末端に位置しており，基盤の凝灰角礫岩の岩盤上に営まれていることが諫早市教育委員会の調査で確認されている。今回の調査範囲では岩盤まで確認することはできず，往時は砂泥の汀線か浅海という環境にあったものと推測される。

まとめ

これらのことから，工事着工に支障はないものと判断したが，遺跡の範囲内にあたることから，工事に先立って法第57条の３第１項の規定にもとづく工事届を提出する必要がある。

［調査担当：川道・樋口］（文責：川道）



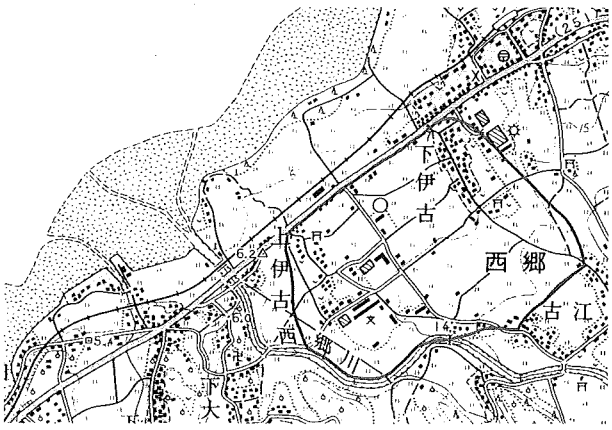
調査全景

⑪伊古（いこ）遺跡

所 在 地	南高来郡瑞穂町西郷	**調査主体**	瑞穂町教育委員会
調査原因	県営圃場整備	**調査面積**	172㎡
調査期間	平成15年３月10日～３月28日（19日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	未定	**処　　置**	本調査

立　地

瑞穂町西郷に所在する伊古遺跡は，縄文時代から中世に至る複合遺跡として周知されている。瑞穂町の中心部に位置し，地形は標高10m前後の火山性扇状地であり，現況は水田，苺・花卉などのビニールハウス栽培に利用されている。また，この地は伊古条里跡と指摘されており，条里区画が明瞭に残っている。



伊古遺跡位置図［湯江］（S=1/25,000）

調　査

調査は周知の遺跡の範囲内を30mメッシュで，それ以外の工事予定地を50mメッシュの間隔で２×２mの試掘坑を設定調査した。条里地割りの存在を明らかにするために，短冊地割りに直交する１×４mなどのトレンチを併用しながら調査を進めた。その結果各試掘坑において多かれ少なかれ遺物の出土をみ，遺構らしきものの存在も明らかになった。特にＢ89試掘坑からは中世の墳墓が検出されて注目された。方形のプランで棺床付近には完形の青磁碗が口縁部を上にして副葬されていた。

まとめ

伊古遺跡からは，水田の畦畔と思われる遺構，道路状の遺構？，中世の墓地，弥生時代の土器・石器，中世の青磁・白磁，須恵器・土師器など非常に豊富な遺構・遺物が検出された。範囲確認調査は平成15年度も継続して行われる予定である。　［調査担当：川道・村川］（文責：川道）

調査風景

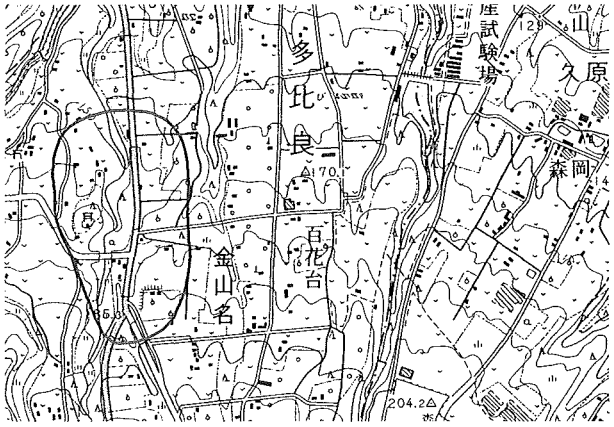
中世墳墓検出状況（Ｂ89試掘坑）

⑫百花台（ひゃっかだい）遺跡周辺

所 在 地	南高来郡国見町堀囲	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	地域拠点遺跡内容確認調査	**調査面積**	88㎡
調査期間	平成15年１月20日～２月４日（16日間）	**調査区分**	範囲内容確認調査
報 告 書	平成15年度刊行予定	**処　　置**	調査後，埋め戻し

立　地

今回の調査地点は，雲仙火山北麓の土黒川と多比良川に囲まれた火山性扇状地の標高150～200mに位置する。百花台遺跡の調査で明らかになった第Ⅵ層下部におけるＡＴや第Ⅳ層の礫石原火砕流などのテフラは，今回の調査でも確認された。



百花台遺跡位置図［島原］（S=1/25,000）

調　査

調査地点は国道389号線に沿った小ヶ倉地区と百花台Ｂ遺跡の一部に７箇所の試掘坑を設定した。周知の小ヶ倉Ａ遺跡の範囲内に設定したＴＰ１～４は，良好なテフラの堆積はみられたものの遺物は出土しなかった。ＴＰ５・６は，小ヶ倉Ｂ遺跡の周辺に設定した。ＴＰ５は無遺物であったが，ＴＰ６からは，礫石原火砕流の再堆積土層と考えられる層から，茶園型細石核に代表される後期旧石器時代終末の細石器石器群が検出された。ＴＰ７は百花台Ｂ遺跡内に設定したが，時間的な制約もあり，下層まで確認することができず，遺物も出土しなかった。

まとめ

ＴＰ６で検出した細石器石器群は，いわゆる野岳・休場型細石核を代表するものである。この時期の細石器石器群の特徴として，細石刃関係資料（細石刃・打面再生剥片・打面調整剥片・細石核）が卓越し，掻器・削器などの生活関連資料が少ない傾向にあることが指摘されているが，本遺跡でも例外ではなかった。なお国見町教育委員会が行った小ヶ倉Ａ遺跡の土層中の放射能年代測定（ＡＭＳ法）では14050±70年B.P.という測定値がでており，小ヶ倉Ｂ遺跡の細石器石器群の年代的位置づけとしてきわめて整合的である。

［調査担当：川道・井立・樋口］（文責：川道）

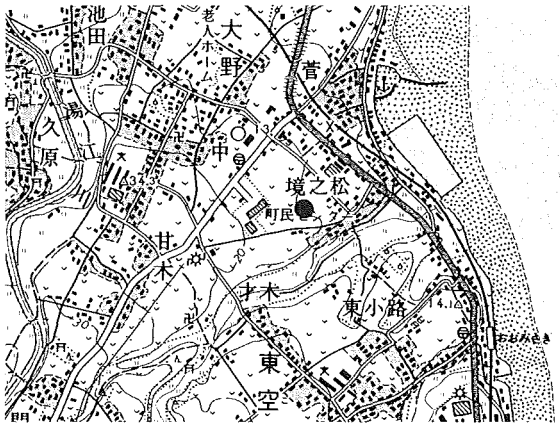
出土状況（ＴＰ６）

⑬大野原遺跡（おおのばる）

所 在 地	南高来郡有明町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	地域拠点遺跡内容確認調査	**調査面積**	80㎡
調査期間	平成15年１月20日～１月30日（10日間）	**調査区分**	範囲内容確認調査
報 告 書	平成15年度刊行予定	**処　　置**	調査後，埋め戻し

立　地

有明町は島原半島北東部に位置し，北は有明海に面し，南は雲仙普賢岳にいたる。町内のほとんどは火山性扇状地に起因する平坦な緩斜面であるため農業が発達している。大野原遺跡は，現在の有明町の役場，郵便局など公共施設が集中している地域に立地する。縄文後期，古代においても拠点的集落を形成していたと見られている。



大野原遺跡位置図［多比良］（S=1/25,000）

調　査

調査は調査対象地に公共座標を用いたグリッドを設定して実施した。最初にグリッド２箇所を調査した。基本土層は次のとおりである。第１層は表土（耕作土），第１層は灰黒色土層，第２層は漆黒色土層（古代～縄文後期の包含層），第３層は黄褐色火山灰層（縄文早期の包含層，遺構検出面）である。遺物は，古代を中心とした土器の細片のみがわずかに出土する。サブトレンチを入れ下層の状況をみたところ，表土下25cm～30cmほどで漆黒色土が部分的に縞状に残り，縄文後期三万田式の土器が出土した。この漆黒色土が本来の古代～縄文後期の包含層と判断した。遺跡からは，かつて縄文時代後期の太郎迫式の土器がまとまって出土しているものの，今回の調査区全体にはトレンチャーの攪乱が及んでいることが判明した。グリッド外の東側はトレンチ調査の結果，黒色土が20～30cm残存していることがわかった。畑の高さ是正のため，厚く表土がのっている。黒色土の上層は耕作によって攪乱され，出土遺物が少なく，出土しても細片である。グリッド外の西側は黒色土がほとんど残っていない。検出した遺構は溝状遺構（２条）とピットである。ピットには建物跡などのまとまりはみられなかった。

まとめ

今後，調査地で土木工事等が行われる場合は，西半分は黄褐色土（第３層）まで重機で除去し遺構面を確認する必要がある。東半分は黒色土が20cm～30cm程度残存するため，黒色土上面から遺構検出を行う必要がある。その場合，表土から黒色土までは50cmほどの層厚があるので，かなりの土量を剥ぐ必要が生じる。

［調査担当：古門・樋口］（文責：古門）

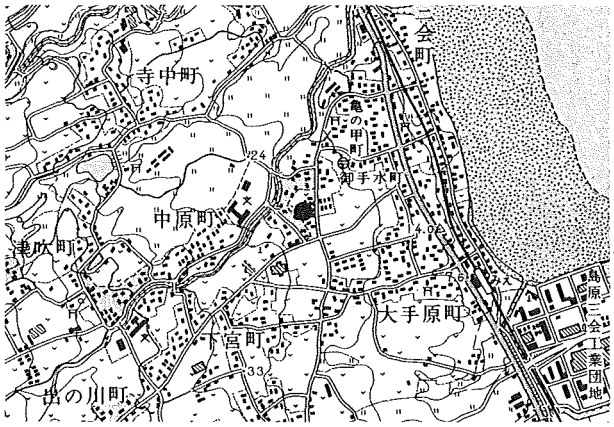
遺構検出風景

⑭畑中（はたなか）遺跡

所 在 地	島原市中原，亀の甲，御手水町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	地域拠点遺跡内容確認調査	**調査面積**	32㎡
調査期間	平成14年12月９日～12月13日（５日間）	**調査区分**	範囲内容確認調査
報 告 書	平成15年度刊行予定	**処　　置**	調査後，埋め戻し

立　地

本遺跡は島原市の北東部に位置し，かつては三会村に属した。遺跡に隣接して西川が流れるが，渡河して北西へ300ｍほど行くと有明町に至る。遺跡付近は普賢岳山麓に形成された火山性扇状地の先端部にあたる。この扇状地の扇央部から扇端部には多くの遺跡が存在し，三会地区は本県でも遺跡密度がきわめて高い地域である。扇頂部には礫石原遺跡が存在する。周囲は畑や住宅が存在する。海岸までは600ｍほどの距離である。



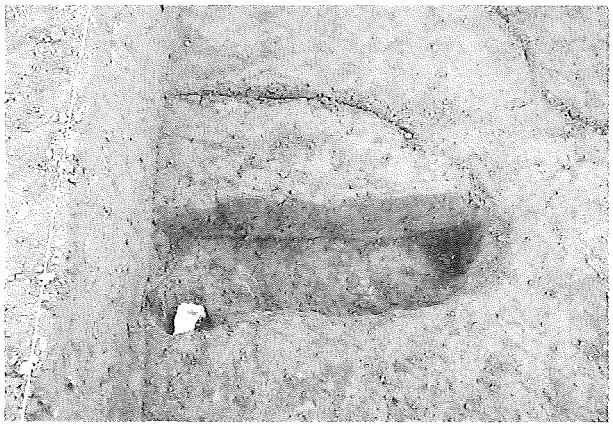
畑中遺跡位置図［島原］（S=1/25,000）

調　査

遺跡範囲外の西側に試掘坑を４箇所設定した。基本土層は次のとおりであるが，第４試掘坑だけは２ｍほど掘り下げた。第１層は表土（耕作土），第２層は明黒褐色土，第３層は黒褐色土，第４層はカシノミ層（通称），第５層は火砕流，第６層は黒褐色土層である。第１試掘坑では，第２層より砥石が出土した土坑などの遺構が出土したが，時期は古代以降と考えられるものの明確な時期の特定できなかった。同層からは縄文，弥生，古代の遺物が細片となって出土しており，まとまった包含層とは考えられない。第２試掘坑は，みかん栽培によるとみられる攪乱がみられ，土層が安定しない。第３試掘坑からは近世末から近代の陶磁器片が出土した。第４試掘坑については，表土（耕作土）下はカシノミ層であり，カシノミ層下は黄褐色砂礫層である。同層上部は20～30㎝大の角礫を含むが，下層は礫のみとなる。この礫層をさらに掘り下げたところ，黒褐色土が層厚50㎝ほどの堆積が見られた。

まとめ

冬野菜栽培時期のため限定的な調査となったが，今回の調査結果から，遺跡範囲は西川の東岸までは広がらない可能性が強い。４箇所の調査坑を設定したが，いずれも包含層を確認することはできなかった。しかし第４試掘坑ではカシノミ層下の火砕流を掘りきったところで，黒色土が堆積していることが判明した。従来，火砕流で調査を終了させていたが，今後の検討課題である。


土坑と砥石

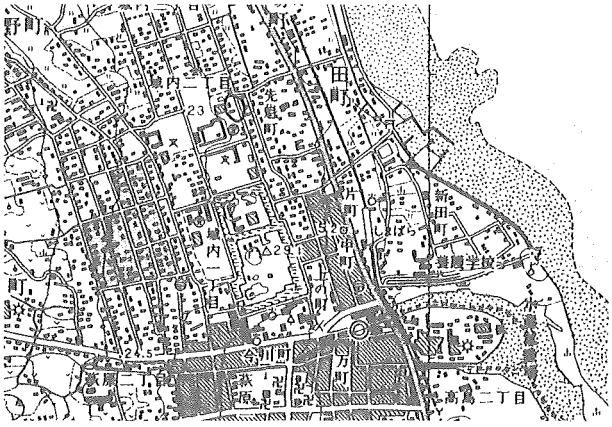
［調査担当：古門・本多］（文責：古門）

⑮森岳城跡（もりたけじょうあと）

所 在 地	島原市城内二丁目1130番地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県立島原高等学校浄化槽建設	**調査面積**	318.7㎡
調査期間	平成14年７月８日～８月13日（27日間）	**調査区分**	本発掘調査
報 告 書	平成14年度刊行	**処　　置**	調査後，工事

立　地

森岳城は島原城ともいい，雲仙岳の東側裾野に位置する島原市内の森岳と呼ばれる丘の上に築かれた近世城郭である。大和五条から入封した松倉重政が，元和四年（1618）に築城したと伝える。



森岳城跡位置図［島原］（S=1/25,000）

調　査

調査地は森岳城の三ノ丸にあたり，歴代藩主の屋敷として利用されていた場所である。平成11年と12年には，県立島原高等学校の体育館と同窓会会館建設に伴い発掘調査が実施された。その後も学校改築に伴う建設計画は相次ぎ，平成14年２月末の確認調査を経て，設計変更が不可避な浄化槽移設地について本調査を実施することとなった。

今回の調査区は三ノ丸に隣接する東堀端に相当する。絵図面では調査地点は屋敷地外にあたり，堀底か外周の取付道路の可能性を考えていた。

発掘に先立ち，調査区全体を分割してグリッド設定を行った。まず調査区を東西に二分し，それぞれＥ・Ｗのアルファベットで表した。南北方向は５ｍ間隔で区分し，南から順に２～７の番号を付した。各グリッドはアルファベットと番号の組み合わせで呼称するようにした。

調査は表土50cmを重機で除去した後，西側から順に掘り進めていった。土層の堆積状況が北から南へ傾斜を示すことから，高い部分を削平し，地ならしすることによって平坦面を造成していることが窺える。検出遺構には，溝跡１基，石組遺構２基，土坑５基，集石４基，瓦溜まり２基，掘立柱建物跡１棟，柱穴列２基，井戸跡１基等があった。

溝跡はＥ区において南北約26ｍ分を検出した。幅は1ｍ～1.4ｍ，深さは約30㎝を測る。溝はＥ２～Ｅ６区にかけては３層から掘り込んでいるが，それより北側では南側とレベルを合わせるように平坦に造成した地山面に直接掘り込んでいる。

SB08・SA04（南東から）

溝の覆土は茶褐色土で，20～50㎝程度の割石が投げ込まれたような状態で検出された。溝内には石列の一部が残っており，少なくとも２段積み以上であった可能性が高い。溝幅については，対面

する東側石列との間隔から，約25cmはあったと考えられる。溝床面のレベルと周辺地形から判断して，北から南への流水方向が考えられる。

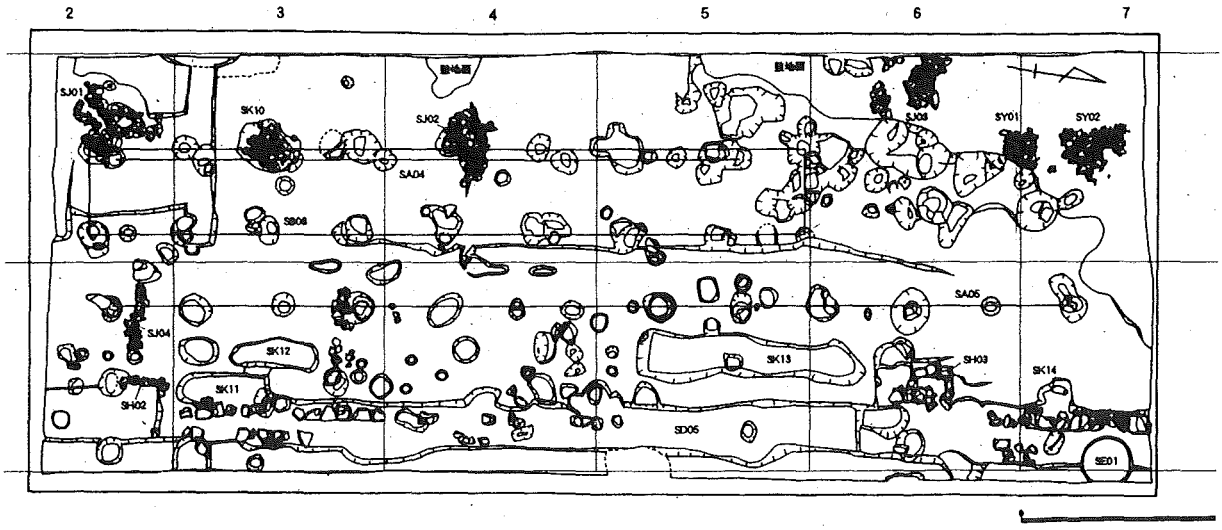
掘立柱建物跡はＷ２～Ｗ６区にかけて検出された。桁行８間，梁行１間の長屋状の建物で，主軸はＮ10°30′Ｗをとる。現存長は桁行16.8m，梁行2.0mを測るが，桁行については調査区南側へ拡張する可能性をもつ。柱穴の掘り方は径60～90cmで，深さは概ね50～70cmを測る。一間の間隔は，2.1m前後とほぼ一定する。時期は，出土遺物から判断すると17世紀後半～18世紀前半であろうか。18世紀中頃以降の絵図には「御厩」の表記が見え，馬関連遺構の可能性も考えられる。

柱穴列は８個の柱穴からなる。Ｗ２区からＷ６区にかけて検出された。実長は14.7mで，調査区の南側へのびる可能性もある。柱穴の間隔は概ね2.1m前後で，主軸はＮ11°Ｗと掘立柱建物跡にほぼ揃う。時期は，出土遺物より17世紀後半から18世紀前半である。

Ｅ２～Ｅ７区にかけても13個の柱穴が南北に連なる。残存長は22.7mを測り，調査区外へ延長する可能性もある。主軸はＮ10°30′Ｗで，掘立柱建物跡や前述の柱穴列とほぼ一致するものの，柱穴の間隔はそれよりやや短い。時期は，出土遺物より17世紀前半の森岳城創建時と考えられ，他の遺構に先行する。

遺物は土器・陶磁器や瓦類を含めて約1,800点が出土した。時期的には16世紀末～17世紀前半，17世紀後半～18世紀前半，18世紀後半～19世紀前半の３期に分けられる。16世紀末～17世紀前半の遺物はＥ３・５区やＷ２～４区で出土し，調査区の南側に偏る。17世紀後半以降はＷ２区やＷ５・６区で多く，東側は相対的に少ない。これは遺構の中心が西側に移行した結果によるものか。瓦類は瓦溜まりのあるＷ４～７区で多い。ただし，新しいタイプが大半を占め，廃城後に投棄されたものであろう。

器種では大甕や擂鉢，粗製の染付碗が目立つ。上手の製品がほとんどみられないことは，城主空間と明確に区別されていたことを示しているのであろう。特異な遺物として蹄鉄や轡，鉛玉があり，「御厩」との関係を想起させる資料として興味深い。　　［調査担当：本田・本多］（文責：本田）



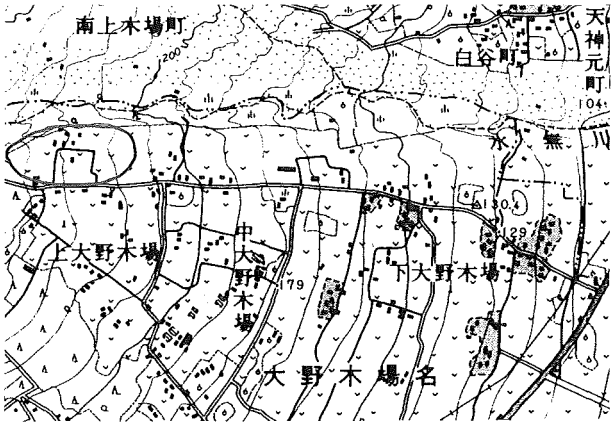
調査区全体遺構配置図（S＝1/200）

⑯権現脇（ごんげんわき）遺跡

所 在 地	南高来郡深江町大字大野木場名字権現脇	**調査主体**	深江町教育委員会
調査原因	水無川上流域平成14年度直轄砂防事業	**調査面積**	80㎡
調査期間	平成14年８月26日～９月５日（９日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成16年度刊行予定	**処　　置**	本調査

立　地

遺跡は島原市と深江町の境界に位置する。雲仙岳から派生した水無川が，山麓に達する付近が遺跡の西限と思われ，この川の両岸に沿って立地している。標高は280～180ｍまであり，東西約1.3㎞にわたって細長く分布する。これまでも川沿いの崖面で土器・石器が地元の人によって多数採集され，遺跡の存在は早くから知られていた。



権現脇遺跡位置図［雲仙］（S=1/25,000）

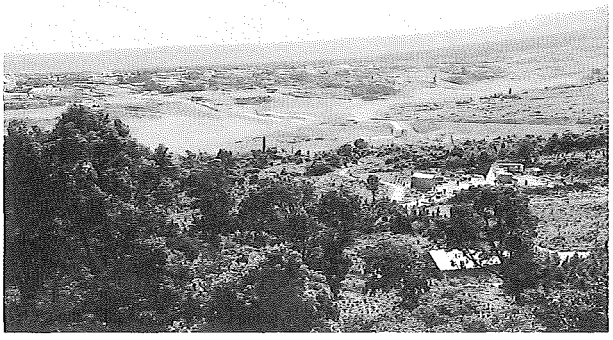
調　査

普賢岳災害で土石流被害の著しかった水無川中・下流域では，遊砂地や導流堤がいち早く建設されたものの，溶岩ドーム直下の上流域は警戒区域内にあり，工事着手できない状態であった。近年立ち入り規制が緩和されたことにより，水無川上流域直轄砂防事業として，赤松谷川１号・２号導流堤の建設工事が着工される運びとなった。ただし，赤松谷川２号導流堤の予定地内には権現脇遺跡が存在することから，工事着手前に遺跡の確認調査を行う必要が生じた。

調査は導流堤総延長330ｍの範囲に２ｍ四方の試掘坑（以下，ＴＰと略す。）を20箇所設けて実施した。その結果，９箇所で良好な遺物包含層が確認された。包含層の厚さは平均50～60cmで，地表から80cm～１ｍほど掘り下げたところに見られる。

土層は大きく７層に分けられた。第１層は茶褐色土層（表土層），第２層は暗茶褐色土層，第３層は黒褐色土層（遺物包含層），第４層は暗黄褐色土層（遺物包含層），第５層は黄褐色土層，第６層は灰黒色土層（パミスを含む），第７層は黄色土層（非常に固く，人頭大の礫混入）である。

第１層は表土で，葉タバコ栽培が行われていた耕作土である。畑の畝に普賢岳の降灰が堆積した所もあった。第２層は暗茶褐色土層で，近現代の遺物が混入する。第３層・第４層は遺物包含層である。第３層は詳細に観察すると，褐色味が強い３a層と，黒色味が強い３b層に細分可能なＴＰもあった。ただし，遺物のうえで新旧の差異は特


権現脇遺跡遠景

に認められなかった。島原市周辺の遺跡では，第３層に相当する黒褐色土層は縄文晩期～中世までの遺物を包含し，年代幅がかなり広いことが知られている。今回の調査においても中国明代の青花磁器片がこの中から出土した。

本遺跡で遺物の主体をなすのは圧倒的に縄文晩期の遺物で，他を凌駕している。第４層も遺物包含層としたが，出土レベルは第４層最下層から第４層上面で多く，それ以下ではほとんど見られない。第５層では全く遺物の出土はなかった。第６層は灰黒色土層でパミスを含むことから，広義のカシノミ層と判断した。第７層は黄色土層で，百花台遺跡の第Ⅷ層に相当するものと考える。

遺物は縄文晩期の土器が主で，ごく稀に中世の遺物も含まれる。土器は条痕文土器を中心に，リボン状突起や蝶ネクタイ状の貼付のあるもの，刻目突帯文土器が出土している。石器は黒曜石製の石鏃の他，蛇紋岩製の磨製石斧や扁平打製石斧といった工具類が出土した。遺跡の中心は水無川寄りにあったものと推察されるが，質量共に内容豊富な出土遺物といえよう。

まとめ

遺物包含層の遺存状況から本調査を要する範囲を絞り込むと，次の３箇所になる。Ａ地区はＴＰ６～ＴＰ９の範囲（面積3,250㎡），Ｂ地区はＴＰ15・ＴＰ19・ＴＰ20の範囲（面積1,300㎡），Ｃ地区はＴＰ17・ＴＰ18の範囲（面積1,950㎡）である。各地区の面積を合計すると6,500㎡となり，これらの範囲に関しては工事着手前に本調査を実施する必要がある。

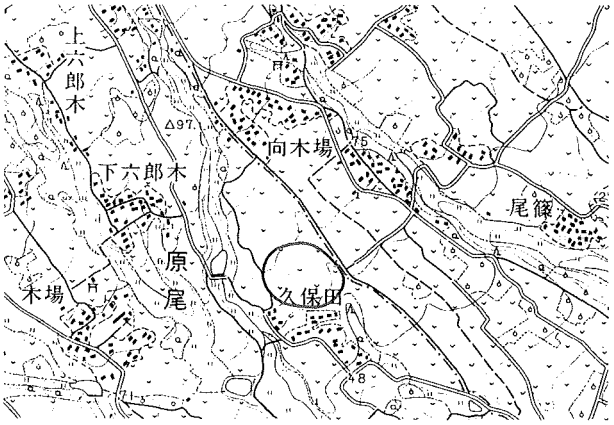
［調査担当：川道・村川・本田・本多］（文責：本田）

⑰野中遺跡（のなか）

所 在 地	南高来郡有家町原尾野中	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	有家３期地区農免農道建設	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成14年12月９日～12月13日（５日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	次年度調査

立　地

野中遺跡は，平成７年度の分布調査により縄文・弥生の遺物包含地であることが確認され，平成13年度に長崎県遺跡地図に追加された遺跡である。布津町との町境に位置し，現状は葉タバコ畑及び宅地として利用されている。周辺には，縄文時代・弥生時代の遺物包含地として木場・鼾野遺跡や下木場遺跡などが所在する。



野中遺跡位置図［雲仙］（S=1/25,000）

調　査

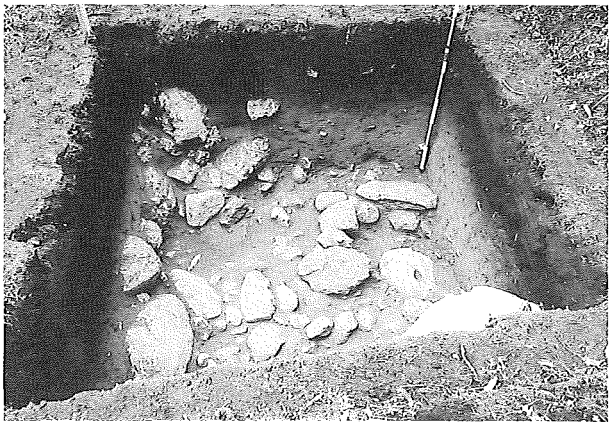
今回，農免農道整備事業に伴い範囲内容確認調査を実施することとなったが，当初調査を予定していた７ヶ所の調査区のうち，布津町境側の調査区２ヶ所については，葉タバコ栽培のためすでに耕作土の整備・消毒等が行われており，やむなく調査を断念した。調査は２ｍ×２ｍの試掘坑（以下ＴＰ）を５ヶ所設定して実施した。ＴＰ１・２は攪乱等を受けておらず，土層の堆積状況は比較的良好であったものの，遺物・遺構は検出されなかった。ＴＰ３～５においては宅地造成や小河川埋立等に攪乱が認められ，遺物・遺構ともにＴＰ１・２と同様確認できなかった。

まとめ

今回調査を断念した布津町境側の調査区２ヶ所については，木場・鼾野遺跡と極めて近接しており，遺物・遺構等が残存している可能性がある。したがって，工事着手前に範囲内容確認調査が必要である。

［調査担当：荒井・井立］（文責：荒井）

調査風景（ＴＰ５）



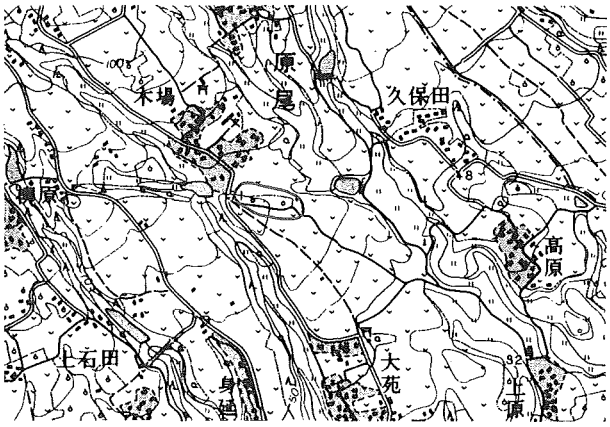
ＴＰ２北壁

⑱下木場（しもこば）遺跡

所 在 地	南高来郡有家町原尾下木場	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	有家３期地区農免農道建設	**調査面積**	42㎡
調査期間	平成14年12月16日～12月20日（５日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成15年度刊行予定	**処　　置**	本調査

立　地

遺跡は島原半島の南東部，妙見岳から派生した舌状丘陵の標高70m付近に位置する。平成11年には大苑地区県営畑地帯総合整備事業に伴い，有家町教育委員会が周辺の確認調査を実施している。その際，縄文土器・須恵器・土師器等の遺物や遺構が出土し，遺跡が丘陵全面に広がっていることが判明した。



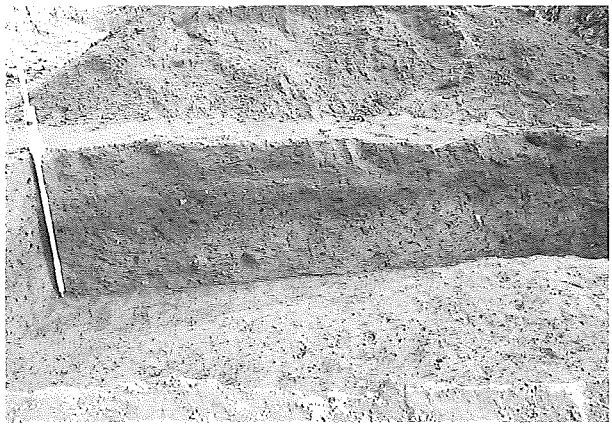
下木場遺跡位置図［雲仙］（S=1/25,000）

調　査

調査は，遺跡の立地する丘陵北東側縁辺での農免農道建設に伴い，事前確認の目的で実施した。発掘調査は，遺跡内を通過する道路延長約230mの中に，２m×３mの試掘坑を５箇所と２m×２mの試掘坑３箇所，計８箇所設けて行った。なお，今回の調査に先立ち，有家町野中遺跡でも同事業に伴う確認調査を行っており，試掘坑はつづき番号でＴＰ６～13と付した。

基本層序は８層に分けられる。第１層は茶褐色の表土層で，第２層は明褐色土層，第３層は暗褐色土層，第４層は明黄褐色土層，第５層は暗褐色土層，第６層は灰褐色土層，第７層は黒灰褐色土層，第８層は混礫赤褐色粘質土層である。そのうち第２層からは弥生土器が，第３層では縄文土器が出土した。

遺物は弥生土器がＴＰ６・ＴＰ７・ＴＰ８・ＴＰ９で出土し，縄文土器はＴＰ６で見られた。弥生土器は時期の特定が難しいが中期以降のものであろう。縄文土器は早期の押型文土器である。ＴＰ６では弥生時代のピット２基が検出された。



ＴＰ９西壁土層

まとめ

結果的に，遺物包含層である第２層と第４層はＴＰ６・ＴＰ７・ＴＰ８・ＴＰ９で良好に遺存していることから，この４箇所を含む範囲（長さ約80m，面積約500㎡）については，工事着手前に本発掘調査が必要である。

［調査担当：本田・井立］（文責：本田）

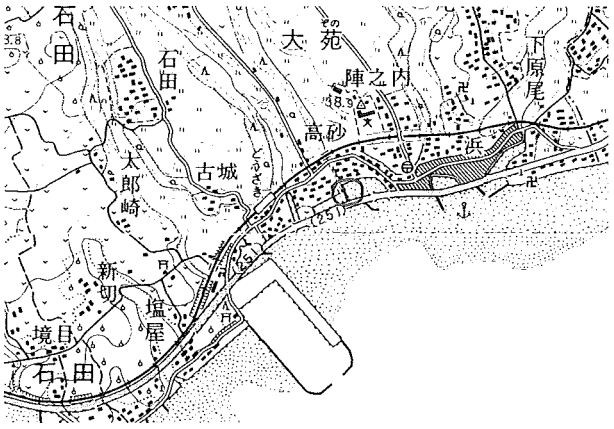
⑲貝森遺跡（かいもり）

所 在 地	南高来郡有家町大苑名高砂谷	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	堂崎港海岸整備事業	**調査面積**	40㎡
調査期間	平成14年6月6日～6月28日（23日間）	**調査区分**	範囲内容確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後，工事

立　地

南高来郡有家町に所在する貝森遺跡は，雲仙岳山麓より有明海へ注ぐ貝森川河口付近の両岸に位置し，現状は住宅地として利用されている。

本遺跡は，過去の調査により縄文時代から弥生時代にかけての遺物包含地であることが確認されている。周辺には堂崎遺跡，石田遺跡，蒲河遺跡といった縄文時代の遺物包含地が海岸沿いに広がっておりそれらとの関連も考えられた。



貝森遺跡位置図［雲仙・須川］（S=1/25,000）

調　査

調査は，工事予定区域内に2m×2mの試掘坑を10ヶ所設定して実施した。その結果，すべての試掘坑において，明確な遺構や遺物包含層を検出するには至らなかった。土層は大きく2層に分けられる。1層は灰褐色及び黒褐色の細かい砂質層である。2層はこぶし大の円礫を含む粗粒の茶褐色砂質層である。石錘や碇石の出土があることから，漁撈活動の場であった可能性もあるが，2層よりわずかながら出土する土器片は，そのほとんどが摩耗しており時期の判別もままならない状態であった。おそらく，貝森川を媒体として上流より運ばれ，海岸沿いに堆積したものと考えられる。

まとめ

以上のことから工事着工に支障はないと判断したが，工事中に遺構・遺物が確認された場合は，速やかに県学芸文化課または有家町教育委員会へ連絡し，協議をする必要がある。

［調査担当：荒井・本多］（文責：荒井）

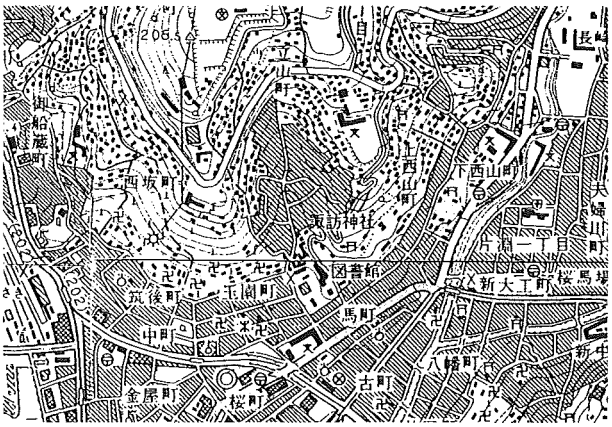
調査風景

⑳岩原目付屋敷跡（いわはらめつけやしきあと）

所 在 地	長崎市立山１丁目１番16号	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	歴史文化博物館（仮称）建設工事	調査面積	32㎡
調査期間	平成14年４月８日～４月26日（19日間）	調査区分	範囲確認調査
報 告 書	平成15年度刊行予定	処　　置	本調査

立　地

本遺跡は，長崎県の南部，県庁所在地である長崎市立山に所在する。長崎の市街地は，南西から北東に深く湾入し，細い入江をなす長崎港を取り囲むようにひろがっている。遺跡は長崎港から金比羅山（標高366.3m）に至る途中，山地斜面に建築物が建ち並ぶ一角に位置する。標高は約30mである。調査地には，平成14年度までユースホステルがあった。



岩原目付屋敷跡位置図［長崎東北部・東南部］（S=1/25,000）

調　査

調査は，歴史文化博物館（仮称）建設に伴い実施した予備調査である。試掘坑をＴＰ１～５まで設定して行った。掘削は人力で行った。基本土層は，地表から約30cmが攪乱層，第２層および第３層が近代の生活面で10～20cmの厚さで堆積している。第４層が近世の遺物包含層である。

ＴＰ１　旧ユースホステル玄関付近に設定した試掘坑で，東西方向の瓦列遺構が確認された。

ＴＰ２　旧ユースホステル中庭に設定した試掘坑で，井戸を確認した。

ＴＰ３　旧ユースホステル北側防空壕前に設定した試掘坑で，戦時中のものと考えられる埋設管などを確認したが，近世の遺構や遺物は確認されなかった。

ＴＰ４　ＴＰ３の西側に設定した試掘坑で，近世の遺構・遺物は確認されなかった。

ＴＰ５　旧ユースホステル西側に設定した試掘坑で，近世の遺物包含層を確認した。年代的には，17世紀初頭から18世紀にかけてのものを含んでいた。

ＴＰ２井戸検出状況

まとめ

ＴＰ３・４を除き，近世の遺構・遺物が確認された。このうちＴＰ２で確認された井戸は，絵図面との比較の結果，岩原目付屋敷のものである可能性が高い。旧ユースホステル北側外周を除いて本調査が必要である。

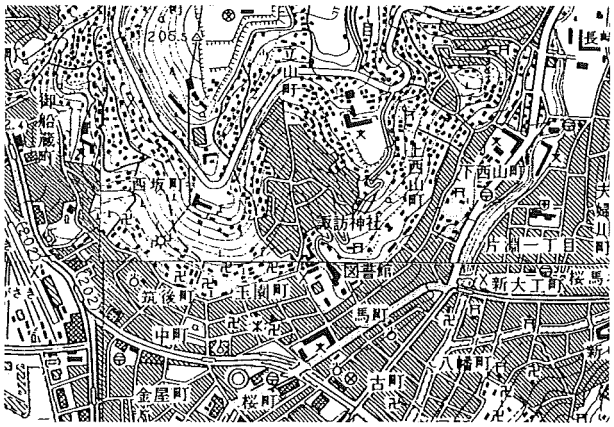
［調査担当：川口・上原］（文責：川口）

㉑長崎奉行所（立山役所）跡

所 在 地	長崎市立山１丁目１番12号ほか	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	歴史文化博物館（仮称）建設工事	**調査面積**	60㎡
調査期間	平成14年４月８日～４月26日（19日間）	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成15年度刊行予定	**処　　置**	本調査

立　地

本遺跡は，長崎県の南部，県庁所在地である長崎市立山に所在する。長崎の市街地は，南西から北東に深く湾入し，細い入江をなす長崎港を取り囲むようにひろがっている。遺跡は長崎港から金比羅山（標高366.3ｍ）に至る途中，山地斜面に建築物が建ち並ぶ一角に位置する。標高は約20～30ｍである。調査地には，平成14年度まで県立美術博物館があった。



長崎奉行所跡位置図［長崎東北部・東南部］（S=1/25,000）

調　査

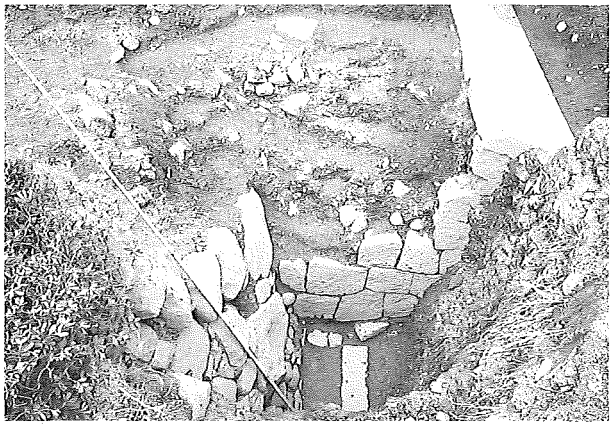
調査は，歴史文化博物館（仮称）建設に伴い実施した予備調査である。試掘坑をＴＰ１～４まで設定して行った。掘削は表土を機械によって除去し，以下を人力で掘り下げた。基本土層は，地表から約50㎝が攪乱層，第２層および第３層が近代の生活面で10～20㎝の厚さで堆積している。第４層が近世の遺物包含層である。

ＴＰ１　旧知事公舎玄関付近に設定した試掘坑で，南北方向の石積みの遺構が確認された。遺物は，17世紀後半が主体となっている。

ＴＰ２　旧知事公舎庭園部分に設定した試掘坑で，表土直下において石組み東西方向の石組の溝を確認した。石で蓋をしてあり，暗渠として使われたと考えられる。

ＴＰ３　旧美術博物館前の庭園部に設定した試掘坑で，東西方向の石垣とこれに取り付く南北方向の階段が確認された。石垣の高さは約４ｍ，階段の幅は約7.8ｍある。

ＴＰ４　近世の遺物が若干出土したが，湧水のため完掘できなかった。



階段・石垣検出状況

まとめ

ＴＰ３で確認された石垣・階段は，絵図面と一致することから長崎奉行所のものと考えられる。各試掘坑の状況を踏まえ本調査が必要である。

［調査担当：川口・上原］（文責：川口）

Ⅲ 平成14年度 長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
1	黒丸遺跡	大村市		○								B		○					
2	三城城跡	大村市							○			B	○						
3	広田窯跡	佐世保市								○		C	○						
4	富の原遺跡	大村市			○							A	○						
5	鬼塚古墳	飯盛町				○						C		○					
6	金山遺跡	国見町			○							C	○						
7	中田遺跡	有明町		○								B		○					
8	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
9	小栗C遺跡	諫早市			○							A	○						
10	深堀遺跡	長崎市		○	○	○					d	A		○				○	
11	長崎奉行所跡	長崎市								○	d								○
12	岩原目付屋敷跡	長崎市								○									○
13	里田原遺跡	田平町		○	○						d	A		○				○	○
14	鷹島海底遺跡	鷹島町							○			A		○					
15	築山遺跡	南有馬町		○								C		○					
16	南上木場遺跡	島原市		○	○							C		○					
17	権現脇遺跡	深江町		○							d	A		○				○	○
18	深堀遺跡	長崎市		○	○						d	A	○						
19	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					e							○	○
20	原の辻遺跡	石田町			○	○					e							○	○
21	坂口横道遺跡	大村市		○								C	○						
22	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
23	玖島城跡	大村市								○		B		○					
24	小ヶ倉A遺跡	国見町	○	○							d							○	○
25	浦小川遺跡	平戸市			○						d								○
26	供養川遺跡	平戸市		○	○				○	○		A		○				○	○
27	金山遺跡	国見町			○						d	A	○						○
28	高尾窯跡	波佐見町								○	d	A		○					○
29	小ヶ倉A遺跡	国見町	○	○								A	○						
30	妙見床遺跡	南串山町		○	○				○		d							○	○
31	菰田洞穴	佐世保市	○	○							d							○	
32	大崎鼻遺跡	布津町		○							d	C		○				○	○
33	多比良馬場遺跡	国見町			○							C		○					
34	西ノ股遺跡	新魚目町			○	○					d								
35	出島和蘭商館跡	長崎市								○		B		○					
36	竹松遺跡	大村市		○					○		d	A	○						
37	黒丸遺跡	大村市		○						○		B		○					
38	富の原遺跡	大村市			○							A		○					
39	森岳城跡	島原市								○	d	A		○				○	○
40	志多留遺跡	上県町		○	○							A		○					
41	山田原遺跡	吾妻町		○								A		○					
42	長与堂崎遺跡	長与町	○	○	○	○					d	C	○						
43	口ノ夏井遺跡	奈留町		○								C		○					
44	葉山遺跡	佐世保市		○								A		○					
45	結石山城跡	上対馬町					○				d	C		○					○
46	白井川遺跡	東彼杵町		○	○	○	○	○	○	○		B		○					○
47	荒瀬遺跡	大村市		○								C	○						
48	三本松遺跡	平戸市		○															
49	荒瀬遺跡	大村市		○								C	○						
50	好武城跡	大村市						○				B		○					
51	上原遺跡	有川町		○	○							C		○					
52	西常盤遺跡	諫早市			○							B		○					
53	上諏訪山田遺跡	大村市			○				○	○	d	A	○						
54	竹松遺跡	大村市		○	○	○						C	○						
55	中浦城跡	西海町							○	○		D				○			○
56	貝森遺跡	有家町		○	○						d								○
57	井手遺跡	峰町			○						a						○		
58	三根遺跡	峰町			○						d						○		
59	平山遺跡A	長崎市		○								B	○						
60	三城城跡	大村市							○		e							○	○
61	勝山町遺跡	長崎市								○		B		○					
62	平山遺跡A	長崎市		○								B		○					
63	貝森遺跡	有家町		○	○							C		○					

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
64	宮ノ浦C遺跡	平戸市		○								B	○						
65	コロノコ遺跡	宇久町	○	○							d	A		○					○
66	松崎遺跡	勝本町		○														○	○
67	三城城跡	大村市										C	○						
68	車出遺跡	郷ノ浦町			○						a							○	○
69	戸田遺跡	郷ノ浦町			○						a							○	○
70	古小鹿遺跡	上対馬町		○								C		○					
71	小ヶ倉A遺跡	国見町	○	○							d							○	○
72	化屋B遺跡	多良見町	○	○								B	○						
73	慈恩寺跡	西有家町							○			C		○					
74	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
75	小田貝塚	大瀬戸町			○							C	○						
76	出島和蘭商館跡	長崎市								○		B		○					
77	田崎遺跡	平戸市		○								B		○					
78	深堀遺跡	長崎市		○	○	○			○	○	d							○	
79	辻ノ尾遺跡	松浦市	○	○	○						d	A		○					○
80	銅座町遺跡	長崎市								○	d	D				○			
81	黒丸遺跡	大村市		○								C		○					
82	大宝遺跡	郷ノ浦町					○	○	○			C		○					
83	朝日遺跡	石田町			○	○	○	○	○			C		○					
84	椿遺跡	石田町				○	○	○				B		○					
85	原の辻遺跡	石田町	○	○	○	○	○	○	○			B		○					
86	古賀島4遺跡	大村市		○								C	○						
87	坂口・内高野遺跡	大村市		○								C	○						
88	里田原遺跡	田平町		○	○				○			A	○						○
89	里田原遺跡	田平町		○	○				○			B		○					
90	野田遺跡	田平町	○	○								A		○					
91	鬼池遺跡	南串山町	○	○					○	○	d								○
92	殿崎遺跡	小値賀町	○	○	○						a						○		○
93	魚見崎遺跡	南串山町	○	○					○			D				○			
94	登建峠遺跡	南串山町		○		○						D				○			
95	出原遺跡	南串山町		○		○						D				○			
96	墓ノ平遺跡	南串山町		○								D				○			
97	車出遺跡	郷ノ浦町			○	○						B		○					
98	壱岐の戸遺跡	郷ノ浦町			○	○						C		○					
99	シャラジ遺跡	小値賀町			○				○		a						○		○
100	出島和蘭商館跡	長崎市								○		B		○					
101	原の辻遺跡	石田町			○	○					d	A	○					○	
102	椎山遺跡	西有家町		○								C		○					
103	上長尾遺跡	大村市		○								C	○						
104	上長尾遺跡	大村市		○								C	○						
105	原の辻遺跡	芦辺町			○						d							○	
106	興触遺跡	芦辺町	○	○	○	○	○	○	○			C		○					
107	興触川上遺跡	芦辺町	○	○	○	○	○	○	○			C		○					
108	入口遺跡	平戸市	○								d								○
109	深堀遺跡	長崎市		○	○						d	A		○				○	
110	風観岳支石墓群	諫早市		○							e							○	○
111	三城城跡	大村市							○			C	○						
112	下薬師平遺跡	南串山町		○								D				○			
113	下小松遺跡	南串山町		○								D				○			
114	上大良遺跡	南串山町		○	○							D				○			
115	大久保谷遺跡	南串山町		○								D				○			
116	池崎原遺跡	南串山町	○	○								D				○			
117	轡遺跡	南串山町		○					○			D				○			○
118	赤山遺跡	南串山町		○								D				○			
119	平田遺跡	南串山町		○								D				○			
120	上鬼塚前田遺跡	南串山町		○								D				○			
121	鬼塚遺跡	南串山町		○					○			D				○			○
122	宮代遺跡	大村市	○	○								C	○						
123	車出遺跡	郷ノ浦町			○	○					e							○	○
124	上長尾遺跡	大村市	○	○								C	○						
125	中ノ瀬遺跡	松浦市		○	○				○			A	○						
126	中ノ瀬遺跡	松浦市		○	○				○		d	A	○						○

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
127	長尾池遺跡	松浦市		○								C	○						
128	大石A遺跡	松浦市	○	○								C	○						
129	牟田C遺跡	松浦市		○	○							C	○						
130	蕨川遺跡	松浦市		○								C	○						
131	牟田C遺跡	松浦市		○	○							C	○						
132	富の原遺跡	大村市			○						e							○	○
133	長崎街道	大村市								○	e							○	
134	庄野の六地蔵塔	松浦市							○			C	○						
135	宮ノ下リ遺跡	松浦市		○	○				○		d	A	○						○
136	立小路遺跡	大村市		○							d	A	○						
137	好武城跡	大村市							○		d	A	○						○
138	三城城跡	大村市							○		d	A	○						
139	川端遺跡	大村市			○						d	A	○						
140	城の尾城跡	大村市							○			D				○			
141	大石A遺跡	松浦市	○	○								C	○						
142	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○						d	A	○						○
143	高尾窯跡	波佐見町								○	d	A		○				○	
144	下開作遺跡	世知原町		○							d	C		○					○
145	三根遺跡	峰町			○	○					d	A		○				○	
146	東楽寺跡	大瀬戸町							○			C		○					
147	笹塚古墳	勝本町				○					b							○	○
148	十園遺跡	国見町			○	○					d	A	○					○	○
149	里田原遺跡	田平町		○	○														○
150	坂口・中高野遺跡	大村市		○								C		○					
151	下久原遺跡	大村市	○	○								C	○						
152	坂本遺跡	松浦市		○								C	○						
153	七目遺跡	有川町		○		○						B		○					
154	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		C		○					
155	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		B		○					
156	富の原遺跡	大村市			○							B		○					
157	船釜経塚	佐世保市								○		D				○			
158	出島和蘭商館跡	長崎市								○		B		○					
159	大苑遺跡	有家町			○	○			○	○	d							○	○
160	唐人屋敷跡	長崎市								○		B	○						
161	唐人屋敷跡	長崎市								○		B	○						
162	岳の城跡	西海町							○			C		○					
163	原の辻遺跡	石田町			○														○
164	松尾古墳	郷ノ浦町				○					d							○	○
165	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		B		○					
166	下木場遺跡	有家町		○	○						d								○
167	金田城跡	美津島町					○												○
168	対馬塚古墳	勝本町				○					d							○	
169	手熊貝塚	長崎市		○	○							A	○						
170	畑中遺跡	島原市		○						○	e							○	○
171	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○	e							○	○
172	手熊貝塚	長崎市		○	○						d	A	○						
173	野岳平遺跡	大村市	○	○								C	○						
174	古賀島4遺跡	大村市		○								C	○						
175	広畑遺跡	大村市	○									C	○						
176	川端遺跡	大村市			○							C	○						
177	長与堂崎遺跡	長与町	○	○	○	○						B	○						
178	三股新登窯跡	波佐見町								○	e							○	
179	火除遺跡	平戸市	○	○	○					○	d								
180	畝刈遺跡	長崎市		○								C	○						
181	古江遺跡	平戸市		○	○							C		○					
182	西常盤遺跡	諫早市		○								B		○					
183	権現脇遺跡	深江町		○								C		○					
184	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		C	○						
185	西常盤遺跡	諫早市		○	○						d								
186	野中遺跡	有家町		○	○						d								
187	長与堂崎遺跡	長与町	○	○	○	○						C	○						
188	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		C	○						
189	オテカタ遺跡	厳原町			○						e							○	○

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
190	長与堂崎遺跡	長与町	○	○	○	○						C							
191	富の原遺跡	大村市			○						d								○
192	浦桑宝篋印塔	新魚目町							○			D				○			
193	鶴田遺跡	石田町			○							C		○					
194	原の辻遺跡	石田町			○	○						C		○					
195	原の辻遺跡	芦辺町			○	○						C		○					
196	手熊貝塚	長崎市		○	○							B	○						
197	中尾城跡	長与町							○			B	○						
198	原の辻遺跡	芦辺町			○	○													○
199	伊賀峰城跡	大村市							○		d								
200	里田原遺跡	田平町		○	○				○			A	○						
201	二ツ石遺跡	有明町		○								C	○						
202	瀬之隈遺跡	峰町			○	○						D				○			
203	掛木古墳	勝本町				○						C		○					
204	伊古遺跡	瑞穂町			○	○					d						○		
205	原の辻遺跡	芦辺町		○					○			C		○					
206	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		C	○						
207	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○		C	○						
208	ウドマリ遺跡	小値賀町																	○
209	ハモキ遺跡	小値賀町																	○
210	八龍山遺跡	小値賀町																	○
211	笛吹遺跡	小値賀町																	○
212	一野遺跡	有明町		○	○	○					d								
213	魚洗川B遺跡	国見町	○	○								B							
214	伊古遺跡	瑞穂町			○							E	○						
215	伊古遺跡	瑞穂町			○							E		○					
216	麻生瀬遺跡	川棚町			○	○						D				○			
217	俵石城跡	長崎市							○		e							○	
218	栢ノ木遺跡	松浦市		○							e							○	○
219	石原遺跡	国見町	○	○		○	○	○	○		d							○	○
220	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○	d								○
221	結城城跡	国見町							○			C	○						
222	門前遺跡	佐世保市		○	○				○	○	d							○	○
223	門前遺跡	佐世保市		○	○				○	○									○
224	百花台遺跡	国見町	○	○														○	○

- 一覧表の通し番号は，文書の届け出順を基準とする。
- 時代については，旧石器時代→旧，縄文時代→縄，弥生時代→弥，古墳時代→古，奈良時代→奈，平安時代→平，鎌倉・室町・戦国時代〔中世〕→中，江戸時代〔近世〕→近としている。
- 原因については　a→学術調査，　b→遺跡整備，　c→自然崩壊，　d→開発事業 に伴う調査，　e→保存目的の範囲内容確認調査を示す。
- 結果については，A→発掘調査，　B→工事立会，　C→慎重工事，　D→遺跡発見，　E→その他としている。

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報 11
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 175 集
編著者名	荒井春房
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町 2 - 13　TEL 095-824-1111
発行年月日	西暦 2004 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
西ノ股遺跡（にしのまたいせき） など 21 遺跡	長崎県 南松浦郡（みなみまつうらぐん） 新魚目町（しんうおのめちょう）など							

長崎県文化財調査報告書　第175集

長崎県埋蔵文化財調査年報11

（平成14年度調査分）

平成16年３月31日

発　行　長崎県教育委員会

長崎市江戸町２-13

印　刷　川口印刷株式会社